NECパーソナルコミュニケータ
Mobile Gear

NEC

Mobile Gear MC-CS11/MC-CS12

ユーザーズガイド（ハードウェア編）



Mobile Gear

・Microsoft、MS-DOS、MS、Windows、Windows NTは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
その他記載している会社名、製品名は各社の登録商標および商標です。

ご注意

(1) 本書の内容の一部または全部を、無断で他に転載することは禁止されています。
(2) 本書の内容は、将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本書の内容は万全を期して作成しております。万一、ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたらご連絡ください。
(4) 運用した結果の影響については、(3)項に関わらず責任をおいかねますのでご了承ください。

Copyright © NEC Corporation 1997

輸出する際の注意事項

本製品（ソフトウェアを含む）は、日本国内仕様であり、外国の規格などには準拠しておりません。本製品は日本国外で使用された場合、当社は責任を負いかねます。また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っておりません。

技術基準等適合認定について

この装置は、電気通信事業法第50条第1項の規定に基づく技術基準等適合認定を受けています。

製品を安全に正しく お使いいただくために

本書は、製品を安全にお使いいただくために、製品をご使用の前によくお読みの上、正しくご使用ください。
また本書は、お読みになったあとも、いつでも見られる場所に保管してください。

本書の説明では次のような絵表示をしています。それぞれ、次のような意味があります。

⚠ 危険	人が死亡するまたは重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠ 警告	人が死亡するまたは重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

	＜注意＞ 一般的な注意、警告、危険の通告を示しています。		＜禁止＞ 一般的な禁止を示しています。
	＜発火注意＞ 発火の可能性が想定されることを示しています。		＜水気禁止＞ 風呂、シャワーなどの水場や水気の多い場所での使用を禁止することを示しています。
	＜破裂注意＞ 破裂の可能性が想定されることを示しています。		＜分解禁止＞ 製品の分解や改造を禁止することを示しています。
	＜感電注意＞ 感電の可能性が想定されることを示しています。		＜電源プラグを抜く＞ ACアダプタをコンセントから必ず抜くように指示しています。
	＜ケガ注意＞ 指を挟まれるなど、ケガを負う可能性が想定されることを示しています。		

⚠ 警告	●発煙や異臭などの異常が生じた場合は、本体の電源をOFFにして、ACアダプタをコンセントから抜いてください。また、ほかにも接続している機器がある場合は、これらも外してください。その後に、点検、修理を販売店もしくは最寄りのNEC商品サービスへ依頼してください。 そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。
⚠ 警告	●本体内部に水などの液体や金属物など、異物が入った場合は、電源をOFFにして、ACアダプタをコンセントから抜いてください。また、ほかにも接続している機器がある場合は、これらも外してください。その後に、販売店もしくは最寄りのNEC商品サービスへ連絡し、点検、修理を依頼してください。 そのまま使用すると、故障・感電・火災の原因となります。
⚠ 注意	●ACアダプタなどのケーブルに傷がついたり、変形などの異常が発生した場合は、販売店もしくは最寄りのNEC商品サービスにご相談ください。そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。
⚠ 注意	●本製品は次のような場合、記憶内容が変化・消去するおそれがあります。 ・電池の使用方法を誤ったとき ・静電気や、電気的ノイズの影響を受けたとき ・電池が自然放電したとき ・故障や修理のとき ・落下・衝撃などの影響を受けたとき ・雷・停電などの不可抗力によるとき 重要な内容は、必ず紙などに控えておくか、バックアップすることをお勧めします。記憶内容が変化し、消去したことによる損害などの請求につきましては、当社は一切その責を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。
この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書にしたがって、正しい取り扱いをしてください。

現在、各航空会社では、航空機の飛行状態（離着陸）などに応じて、機内での電子機器の使用を禁止しています。この装置もその該当機器となります。
詳しい内容については、各航空会社にお問い合わせください。

本機や電池を廃棄するときは、各地方自治体の条例にしたがって処理してください。
詳しくは、最寄りの自治体にお問い合わせください。

本機に関するご質問、ご相談は、NECモバイルギアインフォメーションセンターおよび当社指定のサービス窓口でお受けしております。
上記窓口の電話番号および受付時間については、添付のNECサービス網一覧表をご覧ください。

使用環境についての注意

警告

●湿気の異常に多い場所、水などの液体を扱う場所では、使用しないでください。故障・感電・火災の原因となります。

●引火性のガスや発火性の物質のある場所では、絶対に使用しないでください。火災・爆発の原因となります。

注意

●薬品や化学物質などを扱う場所では、使用しないでください。故障（火災）の原因となります。

●指定の電源電圧以外では、使用しないでください。故障・感電の原因となります。

●ほこりの多い場所では、使用しないでください。故障の原因となります。

●以下の温度/湿度条件内でご使用ください。範囲外で使用すると故障の原因となります。

温度：0℃～40℃

湿度：35％～80％（ただし、結露しないこと）

●長時間保管するときは、高温となる所や寒暖の差が大きい所を避けてください。電池や電子部品などの劣化がはやくなり、故障の原因となります。

設置・接続に関する注意

⚠ 警告

●濡れた手でACアダプタやモジュラーケーブル、メモリカードなどの接続、取り外しは行わないでください。感電の原因となります。

⚠ 注意

●本機やACアダプタのケーブルやモジュラーケーブルなどを、直射日光の当たる場所、熱器具など熱を発生する物の近くには、設置しないでください。故障の原因となります。また、ケーブルの被覆が破れ、感電・火災の原因となることがあります。

●本機を不安定な場所には、設置しないでください。落下して故障やケガの原因となります。

●振動のある場所や衝撃が加わる場所には、設置しないでください。故障の原因となります。

●蛍光灯などの光が液晶ディスプレイ（画面）に入らないように、設置してください。健康を損なう原因となります。

●周辺機器の接続、取り外しなどを行う場合は、本機および周辺機器の電源をすべてOFFにして、ACアダプタや電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。故障・感電の原因となります。

●指定のACアダプタ以外は使用しないでください。故障・感電・火災の原因となります。

ご使用上の注意

⚠警告

●乾電池や充電池、ボタン電池は、お子様、特に乳幼児の手の届かないところへ保管してください。誤って飲み込んだり、なめたりすると危険です。万が一飲み込んだ場合は、ただちに吐き出させ、すみやかに医師に相談してください。

●本機にクリップやネジなど金属物を入れないでください。故障・感電・火災の原因となります。

●添付のCD-ROMは、CD-ROM対応プレーヤー以外では絶対に使用しないでください。大音量が出て耳に被害を被ったり、スピーカーを破損したりするおそれがあります。

⚠注意

●本機の分解や改造は、行わないでください。故障・感電・火災の原因となります。

●旅行などで長期間使用しない場合は、安全のためにACアダプタをコンセントから抜いてください。また大切なデータ（情報）は、メモリカードなどに保存しておいてください。

●長時間作業を行う場合は、疲れなどを感じたら休憩をとるようにしてください。健康を損なう原因となります。翌日まで頭痛や疲れなどが残る場合は、医師に相談してください。

●本機のフタ（液晶ディスプレイ）やコネクタのカバーを閉じるときには、手や指を挟まないように注意してください。ケガの原因となります。

●電池は指定のもの以外は使用しないでください。指定以外のものを使用すると、破裂や液漏れにより故障・火災の原因となります。

●液晶ディスプレイ内部の液体は、絶対に触れたり口に入れたりしないでください。万が一口に入った場合は、すぐに吐き出し、うがいをして、すみやかに医師に相談してください。また、皮膚に付着したり眼に入った場合は、ただちに水でよく洗浄して、すみやかに医師に相談してください。

●液晶ディスプレイ画面をツメや硬いものでたたいたり、先がとがったもので触れたりしないでください。画面を傷つけることがあります。

●本機の、特に液晶ディスプレイやキーボードなどについた汚れは、乾いたきれいな布で軽く拭いてください。水、洗剤や薬品などを使用すると、変色や変形、故障の原因となります。

●保管の際は、上に物を乗せたり、落下する恐れのある所を避け、ほこりなど異物が入らないようにしてください。

乾電池・充電池使用時の注意

乾電池・充電池は誤った取り扱いをすると、漏液や発熱、破裂して、傷害や火災の原因となることがありますので、必ず次のことを守ってください。

⚠危険

●充電池は、本機および指定された高速充電器以外では充電しないでください。
●火の中に投入したり、ショート・分解・加熱しないでください。
●金属製品（コインやヘアピンなど）と一緒に持ち運んだり、保管しないでください。
●＋（プラス）と－（マイナス）の向きを正しく入れてください。
●ハンダ付けしないでください。
●電解液（アルカリ性溶液）が眼に入った場合は、すぐに水で洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
●子供、特に乳幼児の手の届かないところに保管してください。
また、幼児が本機から取り出さないように注意してください。
●充電池を覆っている板やプラスチックをはがしたり、傷つけたりしないでください。

●乾電池は、充電しないでください。

⚠警告

●乾電池は、必ず単3形のアルカリ乾電池を使用してください（異なる種類の電池を使用しないでください）。

●新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。

●漏液や変色、変形、そのほか異常がある場合は、使用しないでください。

●メーカーや種類の異なる電池を組み合わせて使用しないでください。

●電解液（アルカリ性溶液）が皮膚や衣服についた場合は、皮膚に傷害をおこす場合がありますので、ただちに水で洗い流してください。

●もし本機内の充電池の液が漏れたときは、電源をOFFにして、ACアダプタをコンセントから抜き、販売店もしくは最寄りのNEC商品サービスへ連絡して点検・修理を依頼してください。

⚠注意

●電池を使い切ったときや長期間使用しないときは、大切なデータ（情報）をメモリカードなどに保存の上、機器から電池を取り出してください。

●高温の場所で使用・放置しないでください。

●水や海水につけたり、濡らさないでください。

●強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないでください。

●使用後は機器の電源スイッチを切ってください。

●充電池を使う場合は、次の点に注意してください。

・使用前には必ず充電してから使用してください。

・正しい充電をしても、使用時間が短くなってきた場合は、電池の寿命です。新しい電池と取り替えてください。

・使用温度範囲

充電：5℃～40℃　放電：－10℃～50℃　保存：－20℃～35℃

ACアダプタ使用時の注意

⚠警告

●タコ足配線はしないでください。タコ足配線にすると、テーブルタップ等が加熱・劣化し、火災の原因となります。

●ACアダプタおよび高速充電器は指定の電圧範囲で使用してください。異なる電圧で使用すると感電・発煙・火災の原因となります。

●ACアダプタのケーブルを曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。

被覆破れや折線などにより感電・火災の原因となります。

●ACアダプタのケーブルの上に重い物を乗せたり、置いたりしないでください。ケーブルの被覆が破れ、感電・火災の原因となります。

●濡れた手で電源ケーブルなどの接続、取り外しはしないでください。感電の原因となります。

●ACアダプタのコンセントの端子間をショートさせたり、水や液体などをかけたりしないでください。故障・感電・火災の原因となります。

●雷が発生したり、近づいている場合は使用を終了させ、ACアダプタをコンセントから抜いて下さい。

⚠注意

●ACアダプタは必ず指定のACアダプタを使用してください。指定以外のACアダプタを使用すると故障・感電・火災の原因となることがあります。

●ACアダプタはコンセントに確実に差し込んでください。ACアダプタとコンセントの間に隙間ができると、埃が付着しやすく火災の原因となります。

●ケーブルにゆとりを設け、ACアダプタやケーブルに無理な力が加わらないようにしてください。

●本体の使用場所を変更または、移動する場合、ACアダプタおよび接続ケーブルを外してから行ってください。故障・感電・火災の原因となることがあります。

通信機能使用時の注意(MC-CS12のみ)

本製品の内蔵モデムは、日本国内の一般公衆回線（NTTの引き込み線）での使用を目的として設計されています。通信機能（電子メール、パソコン通信、FAXなど）を使用するときは次の点に注意してください。

⚠ 警告

●落雷の恐れがあるときは、モジュラーケーブルを本機から抜いてください。落雷した場合、故障、発火の可能性があります。

⚠ 注意

●海外では回線の電気的仕様が異なりますので使用しないでください。故障、発火の可能性があります。

●家庭用キーテレホン、ビジネスホン、ホームテレホンなどは一般公衆回線とは仕様が異なりますので、使用しないでください。(使用している回線がわからない場合は、電話機を購入された販売店に相談してください。)

●デジタル公衆電話（ISDN）のデジタル側やデジタル式構内交換機（PBX）へ接続しないでください。故障、発火の可能性があります。(構内交換機を使用している場合は、一般加入者回線と同等であることを前もって確認のうえ接続を行ってください。)

はじめに

このたびは、NEC Mobile Gear(MC-CS11、MC-CS12)をお買い求めいただきまして、ありがとうございます。

この取扱説明書は、Mobile Gearをお使いになる方のために、Mobile Gearを使うための準備や電源、オプション機器、注意事項などハードウェアの取り扱い方を説明しています。

お読みになったあとも大切に保管してください。

なお、本書では、Mobile Gear(MC-CS11、MC-CS12)を、「Mobile Gear」または「本機」と表記します。

参考▶ MC-CS11とMC-CS12の機能の違い

MC-CS12は、あらかじめモデムと豊富な通信ソフトが標準装備されており、通信機能をご利用になる方に便利です。

本書の読み方

本書は次のような構成になっています。

『製品を安全に正しくお使いいただくために』～『第１章　準備しよう』までは必ずお読みください。

『第２章　周辺機器と付属品の使用』以降については、お使いになりたい機能や必要に応じてお読みください。

第１章　準備しよう―初めてお使いになるときは―

Mobile Gearの各部の名称や、電池の取り付け方、電源のON／OFFの方法、各機能をお使いになる上で必要になる基本操作などについて説明しています。

はじめてMobile Gearをご使用になる方は、必ず通してお読みください。

第２章　周辺機器と付属品の使用

Mobile Gearを使ってほかの機器（パソコンや他のMobile Gear）とデータを交換するための機器の接続方法、電源となるACアダプタの接続方法を説明しています。

電池を交換する際やACアダプタを接続する際には、必ずお読みください。

また、他の機器と通信などを利用してデータを交換される方は、必要に応じてお読みください。

付録　トラブルシューティング

エラーメッセージが表示された場合や異常と思われる場合の対処方法が記載されています。また、何らかの異常により、記載された対処を行ってもトラブルが回復できなかった場合に行う、リセットや初期化の際の注意事項が記載されています。

トラブルの際や、リセット、初期化を行う前に、必ずお読みください。

そのほか、この章ではアフターサービス、Mobile Gearの取り扱いに関する用語の解説、Mobile Gearの仕様などを記載しています。

本書の表記

■キーの表記

キーボード上のキーは囲みのついた形で表記します。

例　Enter キー

2つのキーを押す動作は2つの囲みを「+」でつないで表記します。

例　Shift + 4 キー…Shift キーを押しながら 4 キーを押す。

■メニューの表記

メニューの各機能名は、囲みのついた形で表記します。

メニュー選択後にさらに詳しいメニューが表示され、その中から機能を選ぶ場合は、ハイフン「−」でつないで表記します。

例　編集(E) − 元に戻す(U)

…メニューから 編集(E) を選択し、プルダウンメニューから 元に戻す(U) を選択する。

■画面の表記

ウィンドウのタイトルなど画面の一番上の行に表示されている画面名は【　】で囲んでいます。

画面に表示される項目名は「　」で囲んでいます。

■注意の表記

注意! …説明中の機能に関する、注意事項について説明をしています。

■参考の表記

参考▶ …説明中の機能に関する、補足事項について説明をしています。

目次

第2章　周辺機器と付属品の使用

付録

第1章

準備しよう

—初めてお使いになるときは—

お買いあげ後、次の手順に従ってMobile Gearを利用する準備を行ってください。電池の取り付け方や、電源のON/OFFの方法など大切なことを説明していますので必ずお読みください。

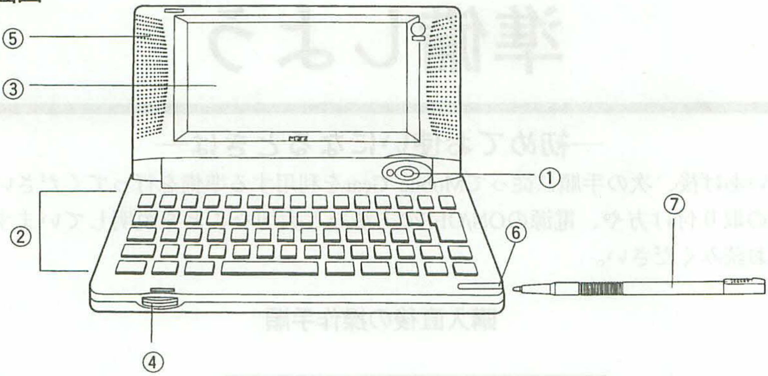
購入直後の操作手順

1	主電池を取り付ける	P.10
2	セットアップテープを引き抜く	P.11
3	フタ（液晶ディスプレイ）を開ける	P.12
4	電源をONにする	P.13
5	セットアップの前に ・表示濃度を設定する ・スタイラスを取り出す	P.14
6	セットアップする	P.16
7	電源をOFFにする	P.20

1.1 各部の名称

1.1.1 外観図

■正面図



①電源スイッチ（Ⓘ）
Mobile Gearの電源をON/OFFするスイッチです。一度押すと電源がONになり、もう一度押すとOFFになります。

②キーボード

③液晶ディスプレイ
480×240ドットの表示ができる4階調式の白黒液晶ディスプレイです。

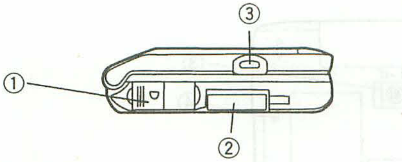
④フタ（液晶ディスプレイ）開閉ボタン
押すとフタ（液晶ディスプレイ）をあけることができます。

⑤スピーカー

⑥スタイラス挿入口
スタイラスを使用しない時、ここに挿入してしまっておきます。

⑦スタイラス
画面に触れて操作するときに使います。

■左側面図

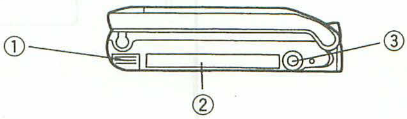


①モジュラージャック（☐）(MC-CS12のみ)
フタを開けるとモジュラージャックがあります。電話回線用のモジュラーケーブルを接続します。

②シリアルコネクタ（|OIOI|）
コネクタカバーを開けるとシリアルコネクタがあります。パソコンと接続する場合は、専用のパソコン接続ケーブルを接続します。
※コネクタカバーをなくさないようにご注意ください。

③バックライトスイッチ（BACK LIGHT）
画面を明るくするためのライト（バックライト）をON/OFFするスイッチです。
一度押すと、バックライトがONになり、もう一度押すとOFFになります。

■右側面図

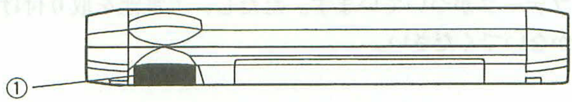


①PCカードイジェクトボタン
PCカードを取り出す場合に、このボタンを押します。

②PCカード挿入口
PCカードを使用する場合、ここに挿入します。

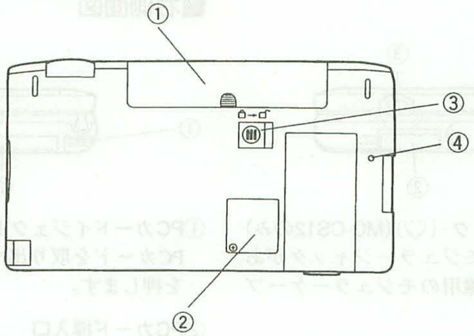
③専用電源コネクタ（⎓）
ACアダプタを接続して使用する場合、このコネクタに挿入します。

■背面図



①赤外線送受光部
赤外線の送信/受信を行います。

■裏面図



①主電池取り付け口
カバーをはずし、主電池（単3アルカリ乾電池2本）を取り付けます。

②副電池取り付け口
カバーをはずし、副電池（ボタン電池形名：CR2032）を取り付けます。

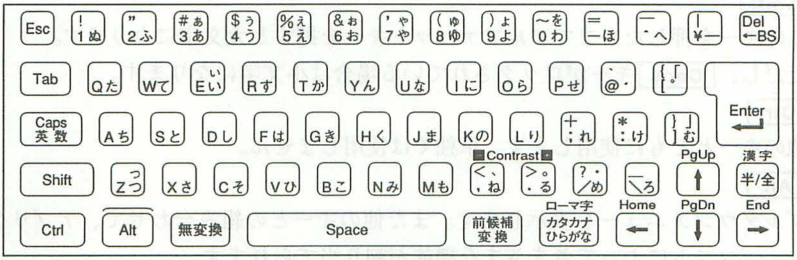
※カバーをはずしたとき、ネジをなくさないようにご注意ください。

③主電池カバーロックスイッチ
ロック（使用時）の状態と解除（電池取り付け/取り外しを行う）の状態を切り替えます。

④リセットスイッチ
リセットする場合、ここを押します。
リセットを行うと、編集中のデータがすべて消去されます。
リセットする前に必ず『付録1.3リセットするときの注意』をお読みください。

注意！ ・出荷時の状態では、副電池取り付け口には副電池を絶縁するためのセットアップテープがついています。ただし、主電池を取り付けるまでは、引き抜かないでください。

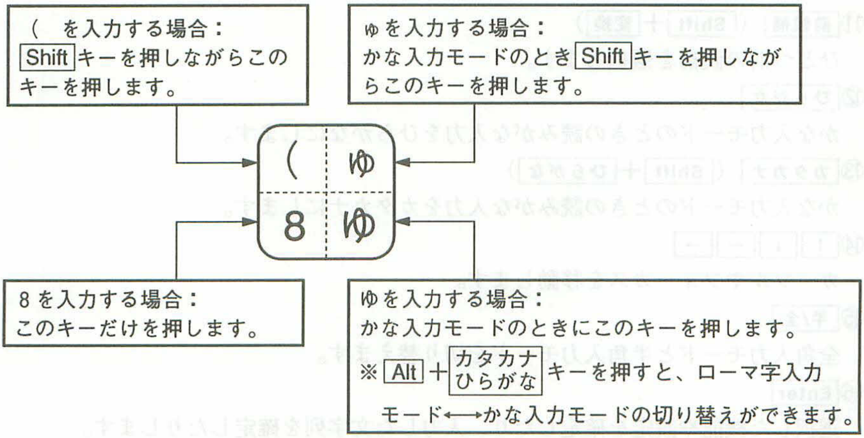
1.1.2 キーの説明



キーボード

キーにはそれぞれいくつかの文字や記号が書かれています。

これらの文字は、Shiftキー、Capsキー、カタカナ ひらがなキーなどと組み合わせて入力します。



①Esc

一つ前の操作に戻ったり、操作を取り消します。

②Tab

あらかじめ設定した文字数分カーソルを移動します。

各設定画面では、入力する項目間をフォーカスが移動します。

③英数

英数字入力モードになります。

④ Caps （Shift ＋ 英数）

このキーを押すと以降の入力はすべて大文字になります。もう1度押すと解除されます。

⑤ Shift

このキーを押したままでアルファベットキーを押すと大文字になります。

ただし、Caps キーがロックされている場合は小文字になります。

⑥ Ctrl

他のキーとともに使用します。単独では使用しません。

⑦ Alt

プルダウンメニューを表示します。また他のキーとの組み合わせで、アプリケーションソフトによってさまざまな機能が割り当てられます。

⑧ 無変換

入力した読みがなをひらがなまたはカタカナに変換します。

⑨ Space

スペースを入力します。未確定文字列がある場合は、文字列の変換を行います。

⑩ 変換

入力した読みがなを漢字に変換します。

⑪ 前候補 （Shift ＋ 変換）

ひとつ前の候補を選択します。

⑫ ひらがな

かな入力モードのときの読みがな入力をひらがなにします。

⑬ カタカナ （Shift ＋ ひらがな）

かな入力モードのときの読みがな入力をカタカナにします。

⑭ ↑ ↓ ← →

カーソルやフォーカスを移動します。

⑮ 半/全

全角入力モードと半角入力モードを切り替えます。

⑯ Enter

選択した機能や設定を確定したり、入力した文字列を確定したりします。

⑰ BS

カーソル位置の一つ前の文字を1文字消します。

⑱ Del （Shift ＋ BS）

カーソル位置の文字を1文字消します。

⑲ Ctrl ＋ 1 ～ 0

Ctrl キーを押しながら数字キーを押すと、画面によって割り当てられている機能が実行されます。

⑳PgUp（[Alt]＋[↑]）
前のページを表示します。

㉑PgDn（[Alt]＋[↓]）
次のページを表示します。

㉒Home（[Alt]＋[←]）
文書の先頭にカーソルを移動します。

㉓End（[Alt]＋[→]）
文書末にカーソルを移動します。

㉔Contrast＋（[Alt]＋[.]）
画面の表示濃度を暗くします。

㉕Contrast－（[Alt]＋[,]）
画面の表示濃度を明るくします。

㉖漢字（[Alt]＋[半/全]）
日本語入力モードに切り替えます。

㉗ローマ字（[Alt]＋[ひらがな]）
ローマ字入力モードに切り替えます。もう一度[Alt]＋[ひらがな]を押すと、かな入力モードに切り替わります。

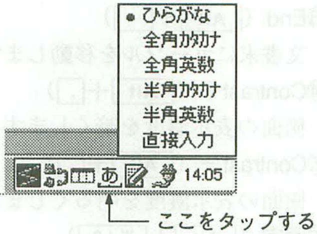
1.1.3 日本語の入力

入力モードの切り替え方法と日本語を入力する基本的な方法について説明します。詳しい操作方法については、『ハンドヘルド PC ユーザーズガイド』を参照してください。

■入力モードの切り替え

画面右下のタスクバーに、現在の入力モードが表示されています。

タスクバーの入力モードボタンをスタイラスで画面にふれる（タップする）と、入力モードの一覧が表示されるので、モードを選択してください。



・ひらがな入力モード「あ」

全角ひらがなで入力を行います。

[変換]キーを押すと、漢字に変換することができます。

・全角カタカナ入力モード「カ」

全角カタカナで入力を行います。

[変換]キーを押すと、漢字に変換することができます。

・全角英数入力モード「Ａ」

全角英数字で入力を行います。

[変換]キーを押すと、全角/半角、大文字/小文字を変更することができます。

・半角カタカナ入力モード「ｶ」

半角カタカナで入力を行います。

[変換]キーを押すと、漢字に変換することができます。

・半角英数入力モード「 A」

半角英数字で入力を行います。

[変換]キーを押すと、全角/半角、大文字/小文字を変更することができます。

・直接入力モード「 A」

半角英数字で直接入力します。変換操作は行えません。

参考▶ 文字の変換は、[変換]キーの代わりに[Space]キーを使うこともできます。

■読みがなを入力する（ローマ字入力/かな入力）

日本語入力が行える状態を「日本語入力モード」と呼びます。

日本語入力モードでは、入力する文字を「読みがな」つまり発音どおりに入力してから文字の変換を行います。読みがなの入力方法には、「ローマ字入力」と「かな入力」の2つがあります。

例　「簡単な操作」と入力する場合

ローマ字入力…　KANNTANNNASOUSA

かな入力　　…　かんたんなそうさ

最初はローマ字入力になるように設定されています。

かな入力を行いたい場合は、［スタート］メニューの［設定(S)］を選択し「かな漢字変換」アイコンを選択します。文字の入力方法を設定する画面が表示され、入力方式を切り替えることができます。

■漢字への変換

入力モードを、ひらがな、全角カタカナ、半角カタカナのいずれかにします。

読みがなを入力し[変換]キーを押すと、漢字に変換され、最初の単語または文節が反転表示されます。

・変換された漢字が正しい場合

[→]キーを押すと、次の文節に反転表示が移動します。

・変換された漢字がすべて正しい場合

[Enter]キーを押すと、表示されている文字列がすべて確定されます。

・変換された漢字の文節または単語の区切りが正しくない場合

[Shift]＋[←]または[Shift]＋[→]キーを押して、文節を区切りなおしてから、もう一度[変換]キーを押します。

・変換された漢字の文節または単語の区切りは正しいが漢字が違う場合

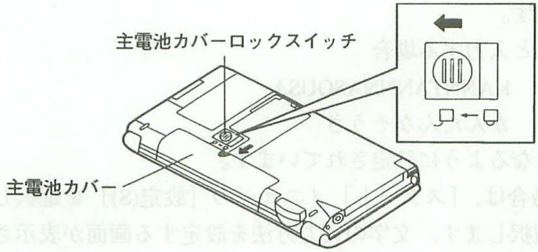
さらに[変換]キーを押すと、他の漢字候補が表示されます。

参考▶　変換中に[Esc]キーを押すと、変換前の読みがな表示に戻ります。
読みがな表示中にもう一度[Esc]キーを押すと、入力した読みがなが消去されます。

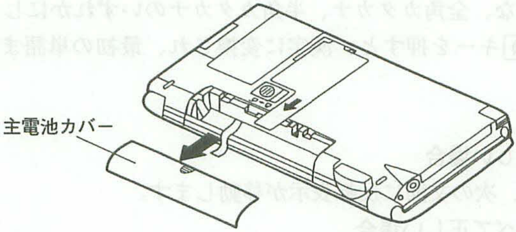
参考▶　変換中に[Ctrl]＋[U]キーを押すと、読みがなをひらがなに、[Ctrl]＋[I]キーを押すと、読みがなをカタカナに、[Ctrl]＋[O]キーを押すと、読みがなを半角文字に（半角文字への変換の場合は、ひらがなはカタカナになります）変換します。
詳しくは『ハンドヘルド PC ユーザーズガイド』を参照してください。

1.2 主電池（アルカリ乾電池）を取り付ける

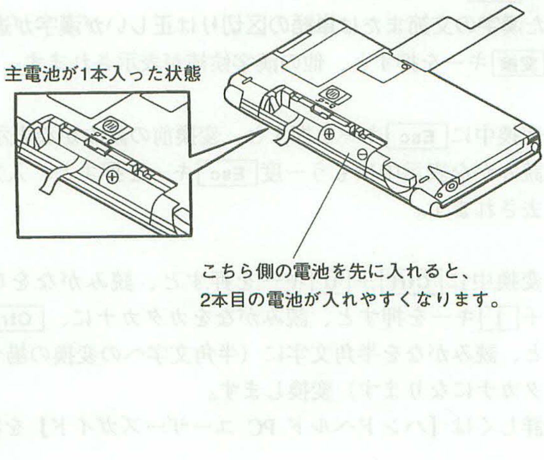
手順1　本機裏側の主電池カバーロックスイッチを解除（□）位置にします。



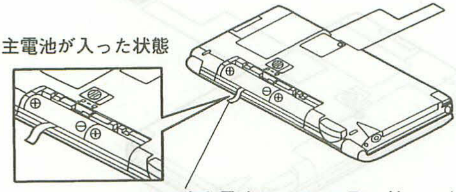
手順2　主電池カバーを上から押すようにしながら、少し強めに外側にスライドさせて取り外します。



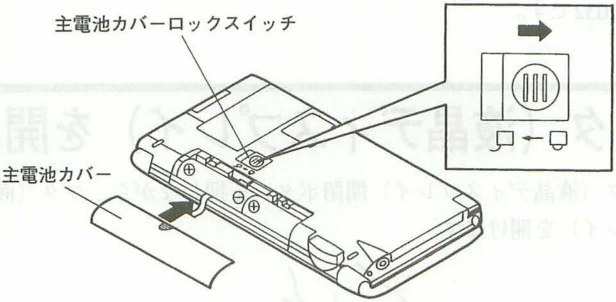
手順3　主電池（アルカリ乾電池）を取り付けます。
電池の＋（プラス）と－（マイナス）の方向に注意して取り付けてください。



手順4 ＋（プラス）側の電池を、先に入れた－（マイナス）側の電池のバネを押すようにしながら取り付けます。



手順5 主電池カバーをパチンと音がするまで強く押して取り付け、主電池カバーロックスイッチをロック（🔒）位置にします。

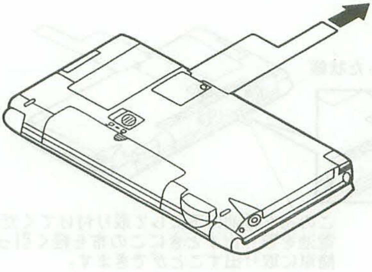


1.3 セットアップテープを引き抜く

副電池（ボタン電池）は主電池交換時や、主電池消耗時のユーザメモリのバックアップ用に使用します。あらかじめ取り付けられており、主電池を入れた後、セットアップテープを引き抜くことで使えるようになります。

注意! セットアップテープを引き抜く前に、必ず主電池を取り付けてください。セットアップテープを先に引き抜いてしまうと、主電池を入れても電源がONにならなかったり、副電池が急激に消耗してしまうことがあります。

手順1　本機裏側より飛び出しているテープ（セットアップテープ）を引き抜きます。



注意!　**電池を交換する前に**
主電池および副電池を交換するときは、必ず『2.1　電池の交換』をよく読んでから交換してください。なお、副電池（ボタン電池）の形名は、CR2032です。

1.4 フタ（液晶ディスプレイ）を開ける

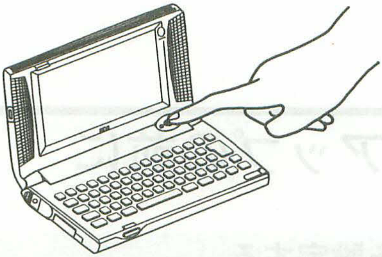
手順1　フタ（液晶ディスプレイ）開閉ボタンを押しながら、フタ（液晶ディスプレイ）を開けます。



注意!　持ち運ぶときや使用しないときは、必ずフタ（液晶ディスプレイ）を閉じてください。画面が傷ついたり割れたりすることがあります。

1.5 電源をONにする

手順1　電源スイッチを押します。



■はじめて電源をONにしたとき

Windows CEの画面が表示されたあと、画面に何も表示されなくなります。しばらくすると、【セットアップウィザード】画面が表示されます。

■2回目以降に電源をONにしたとき

前回電源をOFFにしたときの画面が表示されます。
作業の途中で電源をOFFにしても、レジューム機能により自動的に作業の内容が保存されますので、次に電源をONにしたときには、前回の内容が表示されます。

注意!

・主電池の残量が不足すると、「メインバッテリに関する警告」が表示されます。その状態でしばらく使用すると、自動的に電源がOFFになります。電池が消耗した状態で長時間放置すると、本機のユーザーメモリの内容が消去される場合がありますので、すみやかに電池の交換を行ってください。電池の交換については『2.1 電池の交換』を参照してください。
なお、主電池の交換は必ず残量のある副電池がセットされている状態で行ってください。副電池がセットされていなかったり、セットされていても残量がない状態で主電池の交換を行うと、本機のユーザーメモリの内容が消去されてしまうので注意してください。電池の残量の確認方法は、『2.1.1 主/副電池の消耗の確認』を参照してください。

・主電池が消耗しているときに電源をOFFにした後、再度電源をONにしようとしても電源がONにならないことがあります。このような場合には、新しい主電池に交換してから電源をONにしてください。

参考▶ 電源スイッチを押しても電源がONにならないときは？

電源スイッチを押しても電源がONにならないときは、主電池カバーロックスイッチがロック（🔒）位置になっているか確認してください。
（参照『付録1.2 エラーメッセージは表示されないが異常と思われるときは』）

1.6 セットアップの前に

1.6.1 表示濃度を設定する

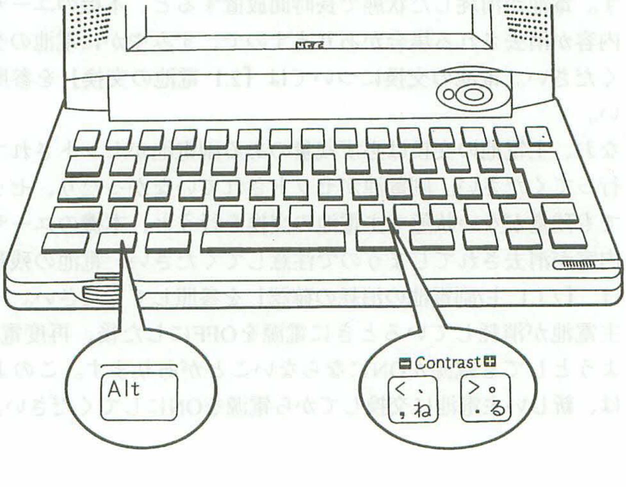
液晶ディスプレイの表示濃度を調節して、見やすくします。

■暗くしたい場合

手順1　Contrast ＋ （Alt キーを押しながら . キー）を押します。押すたびに、少しずつ暗く（濃く）なります。

■明るくしたい場合

手順1　Contrast － （Alt キーを押しながら , キー）を押します。押すたびに、少しずつ明るく（薄く）なります。



1.6.2 スタイラスを取り出す

Mobile Gearでは、画面を直接スタイラスで触れることによって、機能を選択することができます。これ以降の各種のセットアップは、原則としてこのスタイラスで画面に触れる（タップする）ことで行います。

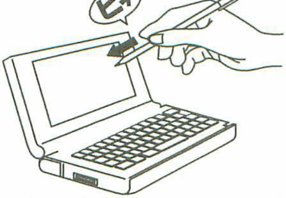
手順1　本機側面から、スタイラスを取り出します。



注意!　画面にふれて操作するときは、スタイラス以外のものを使わないでください。他の先端のとがったものを使うと、画面が傷ついたり割れたりすることがあります。

1.6.3 スタイラスの使い方

本機では、付属のスタイラスを使って画面を直接触れることで機能を選択することができます。
スタイラスの操作には、次の3種類があります。



■タップ

スタイラスで1回軽く押して、すぐに離すことです。
この操作を本書では「タップ」と表記します。



■ダブルタップ

スタイラスですばやく2回タップすることです。
この操作を本書では「ダブルタップ」と表記します。



■ドラッグ

スタイラスの先を画面に押しつけたまま動かすことです。
この操作を本書では「ドラッグ」と表記します。

本書では、スタイラス特有の操作の場合は、ペンというマークをつけて記述しています。

1.7 セットアップする

電源をONにするとWindows CEの画面が表示されたあと、画面に何も表示されなくなります。しばらくすると、【セットアップウィザード】画面が起動します。表示される画面の指示に従って操作を行ってください。【セットアップウィザード】画面では、以下のような項目についての設定を行います。

- ・タッチパネルの補正
- ・地域
- ・日付と時刻
- ・オーナー情報

参考▶ セットアップ中に行った設定は、[スタート] メニューの [設定(S)] をタップすると表示される【コントロールパネル】画面で変更することができます。変更方法については『ハンドヘルド PC ユーザーズガイド』の付録を参照してください。

参考▶ ひらがな・カタカナ・漢字を入力したいとき

ひらがな、カタカナ、漢字を入力したい場合は、Alt＋半／全キーを押して日本語入力モードにします。モードを戻したいときは、もう一度Alt＋半／全キーを押してください。

英数字を入力したいとき

英数キーを押すと、英数字が入力できます。

日本語を入力したいとき

ひらがなキーを押すと、ひらがなで入力することができます。

無変換キーを押すたび、カタカナ（全角）→カタカナ（半角）→ひらがなを繰り返します。

変換キーを押すと、漢字に変換されます。入力したい漢字が出ないときは、何度か変換キーを押します。

文字を修正したいとき

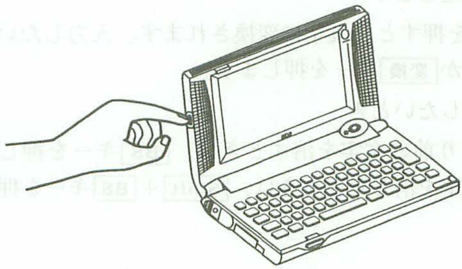
カーソルより前の文字を消すときは、BSキーを押します。カーソルより後の文字を消したいときは、Shift＋BSキーを押します。

1.8 バックライトを点灯・消灯する

■バックライトの点灯・消灯

バックライトを点灯すると、暗い場所でも画面をより鮮明に見やすくすることができます。点灯も消灯も同じ操作で行います。

手順1　バックライトスイッチを押すと、バックライトが点灯/消灯します。



参考▶　バックライトを頻繁に使用すると、電池の消耗を早めます。

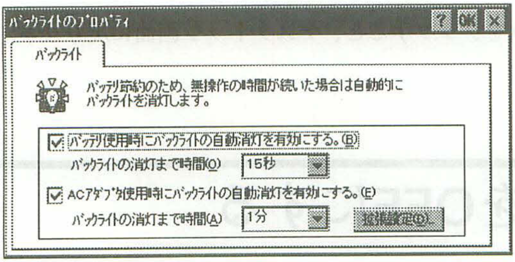
■バックライトの点灯・消灯時間の設定

バックライトを点灯したあと、一定時間キーボードやタッチパネルからの操作がない場合は、自動的にバックライトを消灯して節電するようあらかじめ設定されていますが、消灯までの時間を変えたり、消灯しないようにしたりすることができます。また、消灯後キーボードやタッチパネルから入力があった場合、自動的に点灯させることもできます。

参考▶　**バックライトについてあらかじめ設定されている値**
最後に操作を行ってから、乾電池使用時は約15秒後、ACアダプタ使用時は約1分後に自動消灯するよう設定されています。また、自動点灯はしないよう設定されています。

手順1　デスクトップ画面の［スタート］メニューの［設定(S)］をタップします。【コントロールパネル】画面が表示されます。

手順2　「バックライト」アイコンをダブルタップ（2回続けてタップすること）します。【バックライトのプロパティ】画面が表示されます。

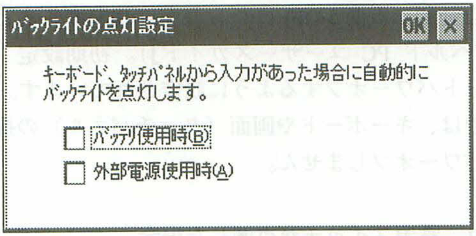


手順3　有効にしたい項目を☑にします。

手順4　消灯までの時間を設定します。▼をタップするとプルダウンリストボックスが表示されるので、設定したい時間をタップします。

注意!　自動消灯を行わないように設定した場合（□にチェックマークがない場合）は、消灯までの時間を設定することはできません。

手順5　拡張設定(D)ボタンをタップします。
【バックライトの点灯設定】画面が表示されます。



手順6　キーボードやタッチパネルから入力があった場合、バックライトを自動的に点灯させることができます。有効にしたい項目をタップして☑にします。

手順7　OKボタンをタップします。【バックライトのプロパティ】画面に戻ります。

手順**8**　［ファイル(F)］－［閉じる(C)］をタップします。【コントロールパネル】画面に戻ります。

手順**9**　OKボタンをタップすると、デスクトップ画面に戻ります。

1.9 電源をOFFにする

Mobile Gearにはレジューム機能がありますので、次に電源をONにしたときは、電源をOFFにしたときの画面と同じ画面が表示されます。

例　エディタを使って文書を作成している最中に文書を保存しないで電源をOFFにしても、次に電源をONにしたときは、電源をOFFにしたときの作成途中の文書が画面に表示され、そのままま続きを作成することができます。

手順**1**　電源スイッチを押します。またはWindows CEの［スタート］メニューの［サスペンド（U)］をタップすると、電源がOFFになります。

参考▶　オートパワーオフ機能について

電源がONになっているときに、ある一定の時間、操作をまったく行わないでいると自動的に電源がOFFになるように設定することができます（参照『ハンドヘルド PC ユーザーズガイド』)。初期設定（出荷時の状態）では、オートパワーオフするように設定されています。

ただし、通信中は、キーボードや画面（タッチパネル）の操作を行わなくてもオートパワーオフしません。

参考▶　アラームが鳴り、電源スイッチが点滅した場合

世界時計で設定しておいたアラームが鳴り、電源スイッチが点滅した場合は、電源スイッチを1回押すとアラームと電源スイッチの点滅を止めることができます。もう1回押すと、電源がOFFになります。

1.10 困ったらヘルプ機能

操作方法がわからなくなったり、思ったとおりに使えないときは、ヘルプ機能を使います。

手順1 画面右上の[?]ボタンをタップします。画面には、現在使っている機能に関するヘルプ画面が表示されます。

手順2 ヘルプを終了するときは[Esc]キーを押します。または画面右上の☒ボタンをタップします。ヘルプ画面を表示する前の画面に戻ります。

参考 以下のような方法でも、ヘルプ画面を表示することができます。
①［スタート］メニューの［ヘルプ(H)］をタップします。
【ヘルプ】画面が表示されます。
②[ほかのヘルプ]ボタンをタップします。目次が表示されるので、見たい項目をタップします。

参考 ヘルプ画面の□ボタンをタップすると、ヘルプを画面いっぱいに表示することができます。
元に戻す場合は、ヘルプ画面の□ボタンをタップします。

1.11 エラーが起きたときは

■エラーメッセージが表示されたら

誤った操作を行ったり、機能の実行に失敗したりしてエラーが起こると、エラーメッセージが表示されます。『付録1.1 エラーメッセージが表示されたら』を参照して、対処してください。

■故障かな?と思ったら

エラーメッセージは表示されないけれど故障が起こったと思われる場合は、修理を依頼される前に『付録1.2 エラーメッセージは表示されないが異常と思われるときは』を参照して、直るかどうか確認してください。

■リセットについて

強度のノイズ、強いショック、電池が消耗しているなどの原因で、すべての機能が動かなくなったり、データを正常に表示できなくなるなどの異常が発生することがあります。このような場合は、再起動のためにリセット操作を行います。
リセット操作を行うと、保存されているデータは保持されますが、保存されていない編集中のデータなどは消去されます。リセットの方法については、『付録1.3 リセットするときの注意』を参照してください。

■本体の初期化について

リセット操作を行っても同じエラー状態となり直らない場合は、初期化を行います。
ただし、初期化を行うと本機に保存した全データが消去されます。
初期化の方法については、『付録1.4 初期化するときの注意』を参照してください。

参考▶ データの保全について

初期化を行うと、本機に保存した全データが消去されてしまいます。このようなとき、あらかじめメモリカードやパソコンにバックアップを作成しておくと、初期化の後、このデータをMobile Gearにリストアするだけでデータを復元することができるので、こまめにバックアップをとることをおすすめします。バックアップの方法については、『ハンドヘルド PC ユーザーズガイド』を参照してください。ただし、MS-CS12では、『ユーザーズガイド（ソフトウェア編）』の『機能リファレンス 9.2 バックアップとリストア』の方法でもバックアップをとることができます。

第2章

周辺機器と付属品の使用

Mobile Gearでは、他のMobile Gearやパソコンとデータの交換をすることができます。

ここではそうした場合や、他の周辺機器を利用したい場合に必要となってくる、次のことについて説明しています。どこから読み始めてもかまいませんので、必要に応じた項目をお読みください。

電池を交換する、充電する

参照『2.1』～『2.3』P.24

データを交換する

参照『2.4』～『2.6』P.33

オプション機器を使う

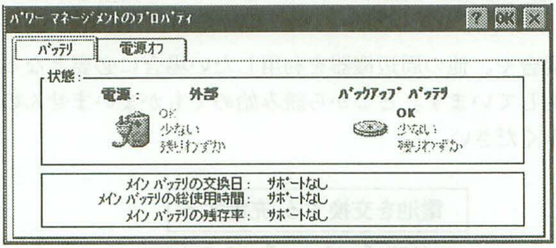
参照『2.7』P.37

2.1 電池の交換

2.1.1 主／副電池の消耗の確認

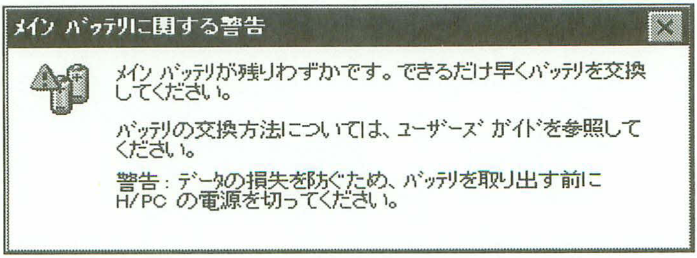
Mobile Gearを使用中にどのくらい電池が消耗したかは、次の手順で確認できます。

手順1 画面右下の電池アイコン（や）をダブルタップ（スタイラスで2回画面に触れること）します。【パワーマネジメントのプロパティ】画面が表示されます。この画面の詳細については、『ハンドヘルド PC ユーザーズガイド』を参照してください。



2.1.2 主電池が消耗した場合

主電池が消耗し、残りわずかになった場合は、「メインバッテリに関する警告」が表示されますので以下の手順に従って主電池（単3形アルカリ乾電池または専用充電池）を交換してください。
交換するときは、新しい主電池を用意してから消耗した主電池を取り外してください。



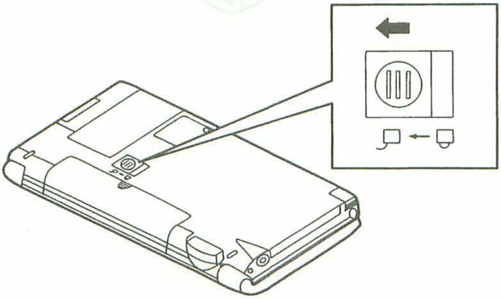
注意!
・主電池と副電池の両方の警告の画面が表示された場合、はじめに副電池を交換してからその後に主電池を取り外して、新しい主電池を入れるようにしてください。
・主電池を抜いた状態で長時間放置すると、副電池を消耗します。副電池が消耗している場合、または抜いた状態では、本機のユーザーメモリの内容が消去されることがあります。
・主電池の交換は必ず残量のある副電池がセットされている状態で行ってください。副電池がセットされていなかったり、セットされていても残量がない状態で主電池の交換を行うと、本機のユーザーメモリの内容が消去されてしまうので注意してください。電池の残量の確認方法は、『2.1.1 主/副電池の消耗の確認』を参照してください。

手順1 文書を開いて編集している場合、文書を保存します。

手順2 本機電源をOFFにします。

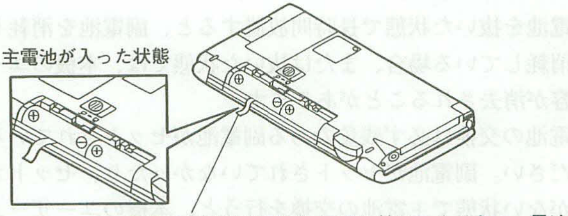
手順3 新しい単3形アルカリ電池2本を用意するか、別売の専用充電池をフル充電したものを用意します。

手順4 本機裏側の主電池カバーロックスイッチを解除（🔓）位置にスライドさせます。

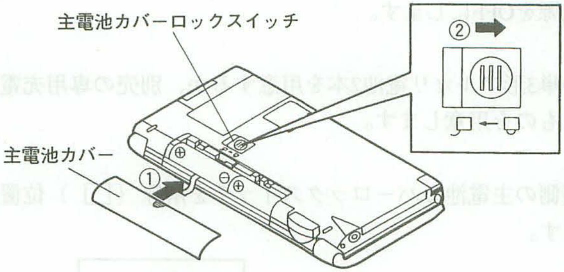


手順5 上から押すようにしながら主電池カバーを外側へスライドさせて取り外し、電池を取り外します。主電池の下にひいた布を軽く引っ張ると、電池を簡単に取り出すことができます。

手順**6**　用意した主電池もしくは専用充電池を電池のプラスとマイナスの方向が正しいか確認して、－（マイナス）側から取り付けます。



手順**7**　主電池カバーをパチンと音がするまで強く押して取り付け、主電池カバーロックスイッチをロック（🔒）位置にします。



注意!
・電池を交換する前には、必ず電源をOFFにしてください。
・「メインバッテリに関する警告」が表示された後もそのままの状態で使用を続けると、自動的に電源が切れます。自動的に電源が切れたときは、速やかに主電池の交換を行ってください。
・初期化（購入直後の状態に戻す）目的で、主電池と副電池の両方を外した場合は、『付録1.4 初期化するときの注意』を参照してください。
・主電池が消耗し「メインバッテリに関する警告」が表示されても、しばらく時間が経過すると容量が若干戻ることがあります。消耗した電池は早めに交換してください。
・単3形アルカリ乾電池はその製造メーカや使用温度、保存環境などにより放電特性が異なり、電池状態が変動すること（OK/少ない/残りわずかの間で変動すること）があります。
添付の単3形アルカリ乾電池と同じ電池、あるいは専用充電池（放電特性が安定しているため、モデム等での通信が長時間利用できます）をおすすめします。
・単3形アルカリ電池で使用する場合は2本とも、必ず同一メーカ、同一種類かつ新しいものを使用してください。
・主電池を抜いた状態で長期間放置すると、副電池を消耗し、ユーザーメモリが消えることがあります。

2.1.3 副電池が消耗した場合

副電池が消耗し確認した消耗レベルが「少ない」または「残りわずか」と表示された場合は、以下の手順に従って、副電池を交換してください。副電池がどのくらい消耗したかは、デスクトップ画面の［スタート］メニューの［設定(S)］をタップし、［パワーマネジメント］アイコンをダブルタップ（スタイラスで2回画面に触れること）すると表示される【パワーマネジメントのプロパティ】画面で確認できます。

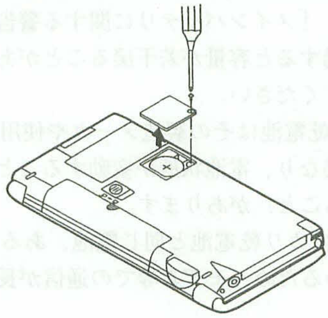
注意!
副電池を交換するときには、絶対に主電池を抜かないでください。主電池を抜いてしまうと、ユーザーメモリの内容が消えてしまいます。

手順1　文書を開いて編集している場合、文書を保存します。

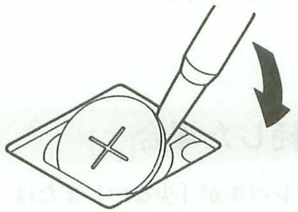
手順2　本機の電源をOFFにします。

手順3　新しい副電池（形名:CR2032）を用意します。

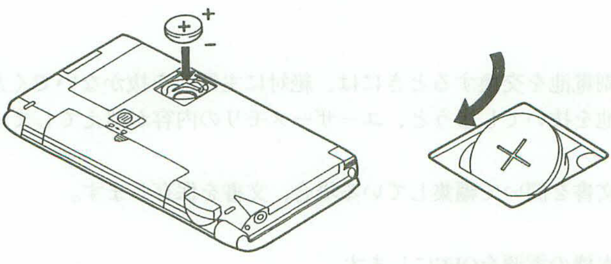
手順4　本機裏側の副電池カバー取り付けネジを＋ドライバーでゆるめて副電池カバーを取り外します。
※副電池カバー取り付けネジをなくさないようご注意ください。



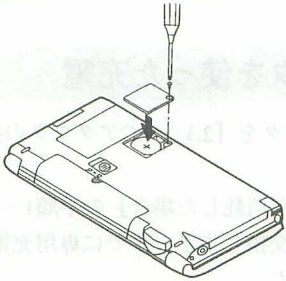
手順5　スタイラスで副電池を取り外します。



手順6　用意した副電池を電池の＋（プラス）を上にして、バネを押さえるようにしながら図の矢印の方向に取り付けます。



手順 **7**　副電池カバーを取り付けて副電池カバー取り付けネジを締めます。



注意!　副電池を抜いた状態で本機を使用しているとユーザーメモリの内容の保持は保証できません（副電池を抜いたままの状態で主電池を取り外すとユーザーメモリの内容は消去されます）。

2.2 充電池（別売）の使用

2.2.1 ACアダプタを使った充電

手順1 別売のACアダプタを『2.3.1 ACアダプタの接続』に従って接続します。

手順2 『2.1.2 主電池が消耗した場合』の手順1～手順7にしたがって、主電池を専用充電池に交換します。すでに専用充電池が入っている場合はそのままで構いません。
これで、充電が始まります。充電が十分行われたかどうかは、『2.1.1 主/副電池の消耗の確認』の手順で確認できます。

注意! 本機の電源がOFFの場合のみ充電は行われます。

注意! 本機ご購入直後に充電を行うときは、一度アルカリ乾電池で装置を動作させるか、専用の充電器で充電を行なった専用充電池を本機に入れてください。それ以外の場合では、充電機能が働かないことがあります。

注意! 本機で使用する充電池は電池を最後まで使い切らずに充電を繰り返した場合、電池の容量が小さくなったように見えることがあります（これを“メモリ効果”といいます）。
本機ではメモリ効果が生じにくいように設計しておりますが、万一同様の現象を感じられた場合は、一度その専用充電池をMobile Gearで最後まで使い切ってから再度充電を行ってください。

2.2.2 高速充電器を使った充電

別売の専用充電池と高速充電器を使用することで効率のよい運用が可能となります。充電の方法は、高速充電器の取扱説明書をご覧ください。
ただし、専用充電池を使用するときは次の事項に注意して使用してください。

- ・充電池のみで使用する場合は充電池を2セット用意し、事前に一方を充電してから電池を交換してください（充電中は他の充電池または電池を入れておいてください。入れていない場合は副電池の消耗が早くなります）。
- ・充電池および高速充電器は当社製品のものを使用してください。他社製充電池等を使用した場合は、装置の動作について当社では一切保証はできません。
- ・充電池は充電を繰り返す間に消耗します。充電回数は、約300回で寿命となるため（動作時間が約半分になるところが寿命の目安です）、寿命となった充電池は使用せず新しいものをご使用ください。
- ・ご購入時や長時間保管後は本書に記載した動作時間を満たせないことがあります。その際は2、3回充電/放電を繰り返すことで動作時間が元の状態に戻ります。
- ・充電はできるだけ本体で使用する直前に行ってください。
- ・専用充電池は必ずLEDランプが消灯し、充電が完了（約90分）してから利用してください。充電が不充分なままでご使用になると急な電圧降下により電源がOFFになることがあります。

参考▶ 専用充電池の型番はMC-BA3です（参照『2.7.4 充電池と高速充電器』）。

2.3 ACアダプタ（別売）の使用

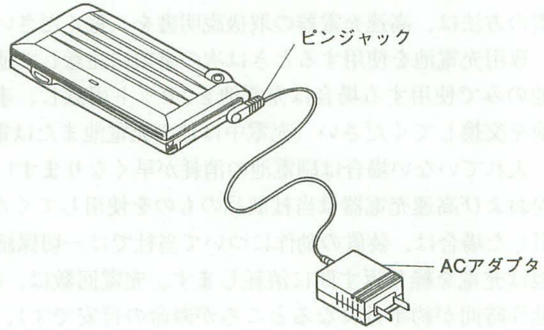
2.3.1 ACアダプタの接続

別売のACアダプタは、長時間Mobile Gearをご利用になる場合や、専用充電池を充電する場合、フラッシュメモリカードやPCMCIA準拠のモデムカードをご利用になる場合に使用します。
ACアダプタは必ずMobile Gear専用のものをご使用ください。

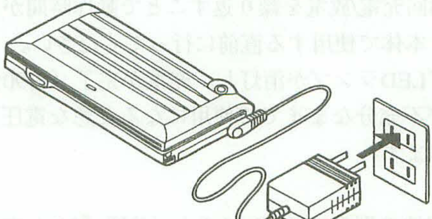
手順1 以下の事項を確認します。

- ・電源がOFFになっていること。
- ・主電池と副電池とが入っていて、消耗していないこと。

手順**2**　ACアダプタのピンジャックを、本機右側面の専用電源コネクタにしっかりと差し込みます。



手順**3**　ACアダプタの電源プラグをコンセントに差し込みます。



参考▶　ACアダプタを付けて電源が入らない場合、次の点を確認してください。

- ・主電池が入っているか。入っていない場合、『2.1 電池の交換』を参照して入れてください。
- ・主電池が入っている場合、ACアダプタをはずして、電源をONにしてください。画面に何も表示されないようであれば、主電池が消耗している可能性があります。新しい主電池に取り換えてください。

2.3.2　ACアダプタの取り外し

手順**1**　Mobile Gearの電源をOFFにします。

手順**2**　ACアダプタの電源プラグをコンセントから外します。

手順**3**　ACアダプタのピンジャックをMobile Gearから外します。

2.4 PCカードの挿入/取り出し

Mobile GearはPCMCIA2.1、JEIDA 4.2準拠のPCカードをサポートしています。使用できるPCカードについては『2.7 オプション機器（別売）』を参照してください。

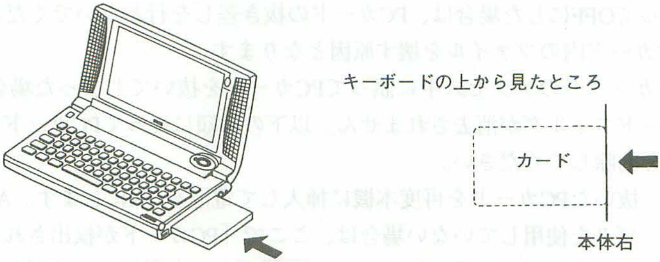
参考▶ 新しいPCカードを挿入する前に、データのバックアップを取っておくことをおすすめします。『ハンドヘルド PC ユーザーズガイド』を参照してください。ただし、MC-CS12では『ユーザーズガイド（ソフトウェア編）』の『機能リファレンス 9.2 バックアップとリストア』の方法でもバックアップをとることができます。

■PCカードの挿入

手順1 本機の電源をOFFにします。

注意! 必ず電源がOFFになっていることを確認してから行ってください。

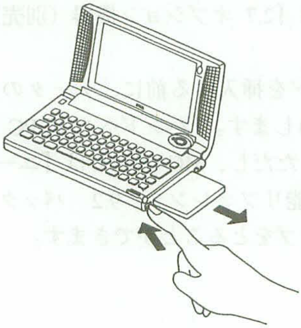
手順2 PCカード挿入口に、PCカードを表面を上にして奥まで差し込みます。



■PCカードの取り出し

手順1　本機の電源をOFFにします。

手順2　PCカードイジェクトボタンを押します。PCカードが少し飛び出します。



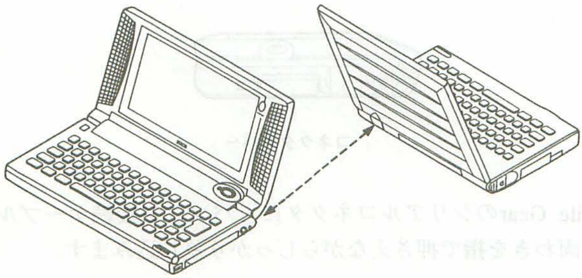
注意!
・PCカードイジェクトボタンを押す前に、必ず本機の電源がOFFになっていることを確認してください。
・PCカードへのアクセス中は、PCカードを抜かないでください。カードが壊れたり、PCカード内のファイルを壊す原因となります。
・PCカードへのアクセス中に本機の電源をOFFにしないでください。
誤ってOFFにした場合は、PCカードの抜き差しを行わないでください。
PCカード内のファイルを壊す原因となります。
・PCカードへのアクセス中に誤ってPCカードを抜いてしまった場合、PCカードフォルダが消去されません。以下の手順に従ってPCカードフォルダを削除してください。
① 抜いたPCカードを再度本機に挿入して電源をONにします。ACアダプタを使用していない場合は、ここで「PCカードが検出されました」という画面が表示されるので、[はい]ボタンを選択してください。
② エクスプローラを起動して、PCカードフォルダを開きます。
③ 画面右上の☒ボタンをタップして、PCカードフォルダを閉じます。
④ 本機の電源をOFFにしてPCカードを本機から抜きます。

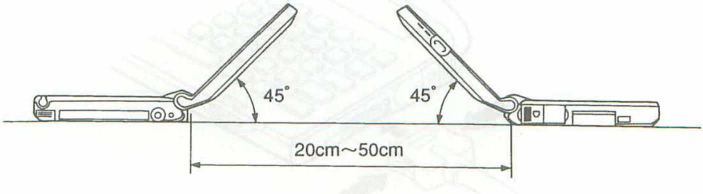
2.5 赤外線通信

赤外線通信を使って、Mobile Gear同士で、データをやりとりすることができます。Mobile Gear同士で赤外線通信を行うときは、Mobile Gear同士をつぎのように設置します。

注意! 赤外線通信は、Mobile Gear（MC-CS11、MC-CS12）同士のみで行えます。その他の機種のMobile Gear（MC-MK22、MC-MK12、MC-MK11、MC-MP11、MC-K1、MC-P1）とは、赤外線通信は行えません。

手順1 フタ（液晶ディスプレイ）を開け、赤外線送受光部が20cm～50cmの範囲内で向かい合うように置きます。フタの角度は、図の状態より狭い角度にならないように、また送受光部と送受光部の間に障害物を置かないようにしてください。





注意! Mobile Gear同士の距離が離れすぎていたり、間に障害物があったりすると、データを正しく受け渡しできなくなります。

参考▶ アプリケーションデータの送受信については、各アプリケーションのマニュアルを参照してください。

2.6 Mobile Gearとパソコンの接続

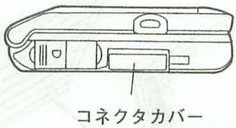
Mobile Gearは、添付のパソコン接続ケーブル(シリアルケーブル)を使用してパソコンと接続できます。

注意! Mobile Gearとパソコンの間でデータの送受信を行うときには、パソコン側にMicrosoft® H/PC エクスプローラをインストールする必要があります。

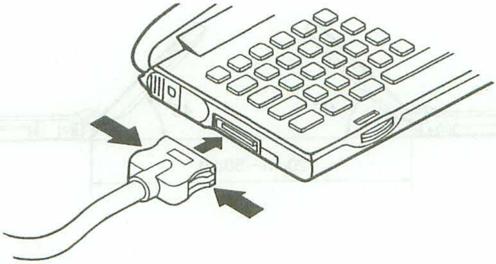
Microsoft® H/PC エクスプローラのインストール方法、使用方法については『ハンドヘルド PC ユーザーズガイド』を参照してください。

手順1 Mobile Gearと、相手となるパソコンの電源をOFFにします。

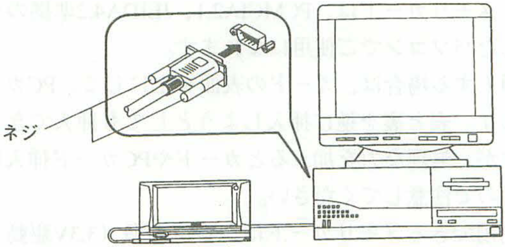
手順2 Mobile Gearのコネクタカバーを外します。脱着式なのでなくさないように気をつけてください。



手順3 Mobile Gearのシリアルコネクタに、パソコン接続ケーブルの16ピン側を、両わきを指で押さえながらしっかり差し込みます。



手順4 パソコン側のシリアルコネクタに、パソコン接続ケーブルの9ピン側をしっかり差し込み左右のネジをしめます。



注意! パソコン接続ケーブルを接続する前に必ず、Mobile Gearとパソコンの電源がOFFになっていることを確認してください。

注意! パソコン側のシリアルコネクタが9ピンでない場合は、9ピンと接続できるようにするための変換コネクタ（別売）が必要です。

2.7 オプション機器（別売）

本機では、メモリ拡張、通信機能拡張やその他の機能拡張のために、次のオプション機器が利用できます。

2.7.1 フラッシュメモリカード

フラッシュメモリカードは、本体から取り出しても記録した内容が保持されているので、本機メモリのバックアップや他のPCカード対応機器とのデータ交換などに便利です。MC-CS12では、『ユーザーズガイド（ソフトウェア編）』の『機能リファレンス 9.2 バックアップとリストア』の方法でフラッシュメモリカードに本機メモリのバックアップをとることができます。
本機では、次の表に示すフラッシュメモリカード（3.3V駆動）が使用できます。

品名	型番	仕様
フラッシュメモリカード（2MB）	PC-FH02L	2MBフラッシュメモリカード
フラッシュメモリカード（4MB）	PC-FH04L	4MBフラッシュメモリカード
フラッシュメモリカード（10MB）	PC-FH10L	10MBフラッシュメモリカード
フラッシュメモリカード（20MB）	PC-FH20L	20MBフラッシュメモリカード
フラッシュメモリカード（40MB）	PC-FH40L	40MBフラッシュメモリカード

注意！ ・フラッシュメモリカードは、PCMCIA2.1、JEIDA4.2準拠のカードスロットを内蔵したパソコンでご使用になれます。

・カードを挿入する場合は、カードの表面を上にして、PCカード挿入口に差し込みます。表と裏を逆に挿入しようとしても挿入できないようになっていますが、無理な力を加えるとカードやPCカード挿入口が破損してしまいますので注意してください。

・通信中に利用できるメモリカードは、省電力型（3.3V駆動）のフラッシュメモリカードだけです。また、通信中やメモリカードのデータ編集中および一覧表示中にカードを抜いたり挿入したりしないでください。これらの条件に反した運用をすると本体およびカードの故障の原因となります。

注意！ 本機で使用可能なメモリカードや、すでに本機で使用していたメモリカードへ正しくデータが読み書きできなくなった場合は、PCカードスロットを実装するPC-9800シリーズまたはIBM PC/AT　100%互換機（ここでは「パソコン」と表記します）でメモリカードを初期化してください。ただし、メモリカードを初期化するとカードに保存されているデータはすべて消去されます。

■Microsoft® Windows®95/NT4.0での初期化手順

①メモリカードをパソコンのPCカードスロットに差し込み、デスクトップ画面上の「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。

②メモリカードのドライブをクリックして、［ファイル］メニューの［フォーマット］をクリックします。

③【フォーマット】ダイアログボックスが表示されるので、必要な項目を選択して「スタート」ボタンをクリックすると初期化が開始されます。

注意！ ・本機以外を使用してメモリカードに全角文字または半角カタカナで名前をつけたフォルダを作成した場合、本機のエクスプローラおよびMicrosoft® H/PCエクスプローラでは、そのフォルダ内のファイル一覧が表示されない場合があります。その場合は、パソコンでフォルダ名を半角英数文字に変更してください。

■Microsoft® Windows®95/NT4.0でのフォルダ名変更手順

①メモリカードをパソコンのPCカードスロットに差し込み、デスクトップ画面上の「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。

②メモリカードのドライブをクリックして、メモリカードの内容一覧を表示します。

③名前を変更するフォルダをクリックして、［ファイル］メニューの［名前の変更］をクリックします。

④フォルダ名が反転表示され文字が入力できる状態になるので、半角英数字でフォルダ名を入力して、[Enter]キーを押します。

・本機を使用して全角文字または半角カタカナで名前をつけたフォルダやファイルを作成したメモリカードをパソコン上でスキャンディスク（またはチェックディスク）を実行すると、「ファイルまたはフォルダの長いファイル名（ロングファイル名）がディスクに正しく保存されていない」というエラーが発生する場合がありますが、そのファイルまたはフォルダは使用することができます。エラーが発生したときは、「エラーを無視して続行」を選択してください。

2.7.2 デジタルセルラカード

デジタルセルラカードを使うと、本機とデジタル携帯電話を接続してパソコン通信、電子メール、FAXの送受信をすることができます。デジタルセルラカードは、本機のPCカード挿入口に挿入します。

デジタルセルラカードはデジタル携帯電話を接続して通信する場合に挿入し、使い終わったらPCカードイジェクトボタンを押してとりはずしてください。

利用可能な携帯電話や利用上の注意事項は、デジタルセルラカード付属の説明書を参照してください。本機では次のデジタルセルラカードが利用できます。

・PC-9801N-J13

携帯電話と本機の電源を切ってから、デジタルセルラカードを本機のPCカード挿入口に挿入します。デジタルセルラカード添付のケーブルでカードと携帯電話を接続します（カード付属の説明書を参照）。

電源は本機→携帯電話の順に入れます。通信が終わり電源を切るときは、携帯電話→本機の順に電源を切りデジタルセルラカードを本機よりはずしてください。

注意!

・デジタルセルラカードをご利用になる場合は、モデムの設定を行う必要があります。詳細については『ハンドヘルド PC ユーザーズガイド』を参照してください。ただし、MC-CS12では『ユーザーズガイド（ソフトウェア編）』の機能リファレンスの『1.5.2 回線を設定する』『1.5.3 モデムの詳細設定を行う』『5.4 通信設定を行う』の方法でも、モデムの設定を行うことができます。

・カードを挿入する場合は、カードの表面を上にして、PCカード挿入口に差し込みます。表と裏を逆に挿入しようとしても挿入できないようになっていますが、無理な力を加えるとカードやPCカード挿入口が破損してしまいますので注意してください。

2.7.3 モデムカード

MC-CS11でも、別売のモデムカードで通信を行うことができます。

品名	型番	仕様
モデムカード	PC-9801N-J15	DATA：28.8kbps、FAX：14.4kbps
モデムカード	PC-9801N-J16	DATA：33.6kbps、FAX：14.4kbps

注意! カードを挿入する場合は、カードの表面を上にして、PCカード挿入口に差し込みます。表と裏を逆に挿入しようとしても挿入できないようになっていますが、無理な力を加えるとカードやPCカード挿入口が破損してしまいますので注意してください。

2.7.4 充電池と高速充電器

単3アルカリ乾電池の代わりに、専用の充電池を使用することもできます。
充電池を充電する場合は専用充電器を使用してください。なお『2.7.5 ACアダプタ』のACアダプタを併用することで充電池を本体内で充電する（充電時間約10時間）ことができます。

品名	型番	仕様
充電池（縦並びタイプ）	MC-BA3	Ni-MH充電池パック
高速充電器（縦並びタイプ用）	MC-BA4	MC-BA3用充電器

2.7.5 ACアダプタ

電池や充電池を使わずにコンセントから電源をとる場合は、ACアダプタを使用します。

品名	型番	仕様
ACアダプタ	MC-BA5	AC100V±10% 50/60Hz
ACアダプタ	MC-BA51	AC100V-240V 50/60Hz
ACアダプタ	MC-BA51A	AC100V-240V 50/60Hz

MC-BA5とMC-BA51は、出荷していますが生産していません（在庫がある分のみ出荷中）。

付　録

エラーが起きた場合の対処方法を日頃からのエラー対処としても読んでいただけるように構成し掲載しています。またメンテナンスに必要な各種の情報を掲載しています。

付録1 トラブルシューティング

付録1.1 エラーメッセージが表示されたら

＜共通＞

ファイル容量が不足しています。	不要なデータを削除して再度実行してください。
カードが準備されていません。 カードを挿入してください。	カードを挿入して再度実行してください。
単3形電池残量が少ないため、XXXが使用できません。AC接続あるいは電池交換後、ご利用ください。	XXXにはカード、デジタルセルラカード、シリアル通信、内蔵モデム、赤外線通信が入ります。AC接続あるいは電池交換後、ご利用ください。

＜通信＞　※MC-CS12のみ

オートパイロットの実行を継続できません。設定を確認してください。	通信ログを参照後、パソコン通信の設定を確認してください。
アドレス帳が一杯のためIDの自動登録が行えません。	・不要な文書を削除してメモリの残り容量を増やしてください。 ・不要なアドレス帳のデータを削除してメモリの残り容量を増やしてください。
ホストとの接続に失敗しました。	通信設定の設定内容とハードウェアの接続状態を確認してください。
ホストへのログインで失敗しました。	・通信設定のID設定で、IDとパスワードを確認してください。 ・通信設定の接続先設定で、オートログインコマンドを確認してください。
ファイル転送でエラーが発生しました。	・送受信プロトコルを確認して、再度ファイル転送を行ってください。 ・携帯電話やPHS使用時は、電波の届く範囲で再度ファイル転送を行ってください。
メールをX件登録しました。 登録できなかったメールは次回受信操作時に登録を行います。	不要な文書を削除してメモリの残り容量を増やしてください。次回以降に［受信］及び［送受信］を選択した時にメモリ容量に空きがある場合、登録できなかったメールを再登録します。

ネットワークに接続できません。	通信設定の設定内容とハードウェアの接続状態を確認してください。
回線が切断されました。	通信設定の設定内容とハードウェアの接続状態を確認してください。
モデムの初期化に失敗しました。	通信設定の設定内容とハードウェアの接続状態を確認してください。
ホストへのログインで失敗しました。	通信設定の設定内容とハードウェアの接続状態を確認してください。
現在挿入されている種類のメモリカードを通信中に使用することはできません。	使用できるメモリカードは、省電力型のみ（3.3V対応カード）です。メモリカードについては『2.7.1 フラッシュメモリカード』を参照してください。
カードが準備されていません。	通信を終了させて、メモリカードを挿入してください。このメッセージは、ご利用になれないカードが挿入されている場合や単3形電池残量が少ない場合にも表示されることがあります。

＜パソコン通信＞　※MC-CS12のみ

オートパイロットは32個を超えて登録できません。	オートパイロットは32個までしか登録できません。新しく登録したい場合は、すでに登録されているオートパイロットを削除してください。
オートパイロット実行部が正しくインストールされていません。再度インストールして下さい。	オートパイロット実行部のインストールに失敗しているようです。 再度インストールしてください。
ホストが指定されていません。ホストを指定して下さい。	指定されたオートパイロットのホストが登録されていません。指定しているホストを変更するか、登録してください。
カードへのアクセスに失敗しました。	使用できるメモリーカードを正しく挿入してください。
宛先設定がされていない文書には予約マークの変更を行えません。	宛先設定を行ってください。
すでに、通信設定またはメール設定が使用中のため通信環境を変更できません。	通信設定を終了させてから通信環境の切換を行ってください。
通信環境の切換に失敗しました。	通信設定を行ってください。

付録

同一フォルダへの複写はできません。	複写または移動先のフォルダを変えてください。
同一フォルダへの移動はできません。	複写または移動先のフォルダを変えてください。
メモリの容量が不足しています。	不要なファイルを削除してください。
文書の登録ができません。	不要なファイルを削除してください。
データの保管ができません。	不要なファイルを削除してください。
ひとつのフォルダに入れられるファイルを越えてしまいます。処理を中止します。	フォルダ内の不要なファイルを削除してください。
エラーが発生しました。選択するファイル数を少なくして再実行してください。	選択ファイル数を少なくしてください。
カードにプロテクトがかかっています。	プロテクトを解除してください。
指定されたフォルダ名はすでに存在します。	フォルダ名を変えてください。
指定のフォルダがありません。	フォルダを変えてください。
指定されたフォルダは操作できません。	フォルダを変えてください。
作成できるフォルダの数を越えてしまいます。処理を中止します。	不要なフォルダを削除してください。
管理情報が壊れています。再表示してください。	「再表示」を行ってください。
復元元と復元先が同じファイル名です。	復元先ファイル名を変えてください。
復元できませんでした。	不要なファイルを削除してください。または他に実行しているアプリケーションを終了してください。
添付ファイルが見つかりませんでした。	指定したファイルに添付ファイルがあるか確認してください。
無効なフォルダ名です。	フォルダ名に使用できない文字を使用しないでください。
ゴミ箱フォルダがありません。作成します。	文書を削除するにはゴミ箱フォルダが必要です。ゴミ箱フォルダがない場合は作成します。

ゴミ箱フォルダが作成できませんでした。削除処理を中止します。	メール保管フォルダ内の不要なファイル、フォルダを削除してください。
文書の読み込みができません。	文書ファイルが破損していないか確認してください。または他に実行しているアプリケーションを終了してください。

＜通信設定＞ ※MC-CS12のみ

ポートオープン処理時に異常終了しました。	電話回線かモデムに異常があります。 電話回線プロパティ、あるいはモデムプロパティの設定に間違いがないか確認してください。 間違いがなければ、電話回線が正しくモデムに接続されているか、コンピュータとモデムが正しく接続されているか確認してください。
回線接続時に異常終了しました。	電話回線かモデムに異常があります。 電話回線プロパティ、あるいはモデムプロパティの設定に間違いがないか確認してください。 間違いがなければ、電話回線が正しくモデムに接続されているか、コンピュータとモデムが正しく接続されているか確認してください。
メッセージ送信時に異常終了しました。	電話回線かモデムに異常があります。 電話回線プロパティ、あるいはモデムプロパティの設定に間違いがないか確認してください。 間違いがなければ、電話回線が正しくモデムに接続されているか、コンピュータとモデムが正しく接続されているか確認してください。
回線切断時に異常終了しました。	電話回線かモデムに異常があります。 電話回線プロパティ、あるいはモデムプロパティの設定に間違いがないか確認してください。 間違いがなければ、電話回線が正しくモデムに接続されているか、コンピュータとモデムが正しく接続されているか確認してください。
すでに、通信設定またはメール設定を使用中のため、通信設定を起動することはできません。	通信設定を同時に複数起動することやメール設定中に通信設定を起動することはできません。起動されている通信設定やメール設定を終了させたあと、あらためて、通信設定を起動してください。

使用できる接続がありません。「リモートネットワークの設定」で接続を追加してください。	インターネットの接続先を設定するためには、あらかじめリモートネットワークの接続を作成しておく必要があります。「リモートネットワークの設定」で「新しい接続」を選択して、「接続の種類」に「ダイヤルアップ接続」を指定した接続を作成してください。
接続「(モデム名)」で指定されているモデムは、回線設定で指定されているモデム「(モデム名)」と異なっています。	インターネットとそれ以外のホストへの接続時に異なったモデムを使用する場合以外は、リモートネットワークの接続で指定するモデムは、回線設定で指定されているモデムと同じモデムを指定してください。
接続「(接続名)」はダイヤルアップ接続ではありません。ダイヤルアップ接続を選択してください。	インターネットの接続先として指定するリモートネットワークの接続は、「接続の種類」に「ダイヤルアップ接続」を指定する必要があります。 インターネットの接続先指定で「接続の種類」に「ダイヤルアップ接続」が指定されている接続を指定してください。
接続「(接続名)」は削除されています。他の接続を指定してください。	インターネットの接続先として指定するリモートネットワークの接続が削除されています。 「リモートネットワークの設定」で「新しい接続」を選択して、接続名に表示されている名称を指定して、「接続の種類」に「ダイヤルアップ接続」を指定した接続を作成するか、インターネットの接続先設定で他の接続を選択してください。
モデム「(モデム名)」を使用することができません。指定のモデムカードをスロットに挿入して、「再試行」を選択するか、別のモデムを選択してください。	表示されているモデムカードが本機で認識できていません。モデムカードをスロットに挿入して認識させたあとに「再試行」を選択するか、その他のモデムを選択するようにしてください。

＜メール設定＞　※MC-CS12のみ

すでに、通信設定またはメール設定を使用中のため、メール設定を起動することはできません。	メール設定を同時に複数起動することや通信設定中にメール設定を起動することはできません。 起動されている通信設定やメール設定を終了させたあと、あらためて、メール設定を起動してください。

＜文書管理＞　※MC-CS12のみ

管理ファイルの読み込みに失敗しました。	管理ファイルが不正になっています。「PCファイルの取込」を実行してください。この処理を行うと、ファイルの取込と同時に管理ファイルの再構築を行います。

＜FAX送信＞　※MC-CS12のみ

FAX送信データの作成に失敗しました。	送付票「有」の場合で送付票がない、名前の変更がされている場合などに表示されます。
プログラム実行用メモリが不足しています。	プログラム実行用メモリを増やすか、使用していないアプリケーションを終了させてから、再度実行してください。

＜ポケベルコール使用時＞

ポートオープン処理時に異常終了しました。	電話回線かモデムに異常があります。 電話回線プロパティ、あるいはモデムプロパティの設定に間違いがないか確認してください。 間違いがなければ、電話回線が正しくモデムに接続されているか、コンピュータとモデム正しく接続されているか確認してください。
モデムからの応答がありません。	電話回線かモデムに異常があります。 電話回線プロパティ、あるいはモデムプロパティの設定に間違いがないか確認してください。 間違いがなければ、電話回線が正しくモデムに接続されているか、コンピュータとモデムが正しく接続されているか確認してください。
イニシャライズ処理時に異常終了しました。	電話回線かモデムに異常があります。 電話回線プロパティ、あるいはモデムプロパティの設定に間違いがないか確認してください。 間違いがなければ、電話回線が正しくモデムに接続されているか、コンピュータとモデムが正しく接続されているか確認してください。
回線接続時に異常終了しました。	電話回線かモデムに異常があります。 電話回線プロパティ、あるいはモデムプロパティの設定に間違いがないか確認してください。 間違いがなければ、電話回線が正しくモデムに接続されているか、コンピュータとモデムが正しく接続されているか確認してください。

メッセージ送信時に異常終了しました。	電話回線かモデムに異常があります。 電話回線プロパティ、あるいはモデムプロパティの設定に間違いがないか確認してください。 間違いがなければ、電話回線が正しくモデムに接続されているか、コンピュータとモデムが正しく接続されているか確認してください。
回線切断時に異常終了しました。	電話回線かモデムに異常があります。 電話回線プロパティ、あるいはモデムプロパティの設定に間違いがないか確認してください。 間違いがなければ、電話回線が正しくモデムに接続されているか、コンピュータとモデムが正しく接続されているか確認してください。
呼び出し音を検出しました。	電話がかかってきたため、ポケベル呼び出しを中断しました。もう一度、やりなおしてください。
キャリアを検出できません。	電話回線かモデムに異常があります。 電話回線プロパティ、あるいはモデムプロパティの設定に間違いがないか確認してください。 間違いがなければ、電話回線が正しくモデムに接続されているか、コンピュータとモデムが正しく接続されているか確認してください。
コマンドエラーが発生しました。	電話回線かモデムに異常があります。 電話回線プロパティ、あるいはモデムプロパティの設定に間違いがないか確認してください。 間違いがなければ、電話回線が正しくモデムに接続されているか、コンピュータとモデムが正しく接続されているか確認してください。
ダイヤルトーンを検出できません。	電話回線かモデムに異常があります。 電話回線プロパティ、あるいはモデムプロパティの設定に間違いがないか確認してください。 間違いがなければ、電話回線が正しくモデムに接続されているか、コンピュータとモデムが正しく接続されているか確認してください。
話し中です。	ポケベル呼び出しを行うためにダイヤルしましたが、話し中でした。もう一度、やりなおしてください。
無音部分を検出できません。	電話回線かモデムに異常があります。 電話回線プロパティ、あるいはモデムプロパティの設定に間違いがないか確認してください。 間違いがなければ、電話回線が正しくモデムに接続されているか、コンピュータとモデムが正しく接続されているか確認してください。

リダイヤルを受け付けられません。	ポケベル呼び出しを行うためのダイヤルが失敗しました。少し間隔をあけて、やりなおしてください。
数字以外のポケベル番号が入力されました。	ポケベル番号が違っています。 送信確認メッセージ上のポケベル番号を確認してください。
送信メッセージ長が異常です。	メッセージ長が異常です。 送信確認メッセージ上の送信桁数を確認してください。
メッセージに変換不能なデータが含まれています。	送信できないメッセージです。 送信確認メッセージ上のメッセージを確認してください。
指定のポケベルは呼び出せません（未加入）。	呼び出しできないポケベル番号です。 送信確認メッセージ上のポケベル番号を確認してください。
指定のポケベルは現在利用できません。	呼び出しできないポケベル番号です。 送信確認メッセージ上のポケベル番号を確認してください。
メッセージ送信できないポケベルにメッセージを送信しました。	メッセージ送信できないポケベル番号です。 送信確認メッセージ上のポケベル番号を確認してください。
メッセージの文字数がオーバーしました。	メッセージの文字数がオーバーしています。 送信確認メッセージ上の送信桁数を確認してください。
ポケベル番号に市外局番が付与されていません。	ポケベル番号が違っています。 送信確認メッセージ上のポケベル番号を確認してください。
ポケベルセンターでの処理が混み合っているためポケベルを呼び出せません。	ポケベル呼び出しを行いましたが、ポケベルセンターに受け付けられませんでした。 しばらくしてからもう一度、やりなおしてください。
ポートは既にオープンされています。	指定されたポートは、既に使用されています。 モデムを使用している他のアプリケーションがいないことを確認し、もう一度やりなおしてください。
異常が発生しました。	電話回線かモデムに異常があります。 電話回線プロパティ、あるいはモデムプロパティの設定に間違いがないか確認してください。 間違いがなければ、電話回線が正しくモデムに接続されているか、コンピュータとモデムが正しく接続されているか確認してください。

付録

付録1.2 エラーメッセージは表示されないが異常と思われるときは

次のようなことが起こった場合、故障ではないことがあるので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。それでも現象が変わらない場合は、『付録3 アフターサービス』をご覧の上、修理を依頼してください。

項目	現象	ここを確認してください
電源	電源が入らない。	①新しい主電池を入れてありますか？ 電池が消耗していると保護機能が働いて電源がONされません。 なるべく新品の単3形アルカリ乾電池か、充電済みの充電池パックを使用してください。 また、ACアダプタを使用していても主電池が消耗しているとONできません。これはACアダプタを使用中に抜かれる場合を考慮して保護機能を設けているためです。ACアダプタを使用していても消耗していない主電池をいれておいてください。 ②主電池カバーロックスイッチがロック（🔒）位置になっていますか？ 解除（🔓）状態になっていると、電池交換中と認識されるために電源がONされません。ロック（🔒）位置に切り替えて電源をONしてください。 ③電池が逆向きに入っていませんか？ ④①～③に問題なければリセットスイッチを押してください。それでもONしない場合は電池をすべて抜き、30秒程間隔を置いてから主電池→副電池の順で電池を装着し直してリセットスイッチを押してください（なお電池をすべて抜いた場合、ユーザメモリのデータはすべて消去されます）。それでもONしない場合は故障が考えられます。『付録3 アフターサービス』をご覧の上、修理を依頼してください。 なお、リセットについては『付録1.3 リセットするときの注意』を参照してください。
	ACアダプタを接続しても動作しない。	・コンセントが故障していませんか？ 他のコンセントで確認してください。 ・電池が正しく入っていますか？ 電池が消耗していませんか？

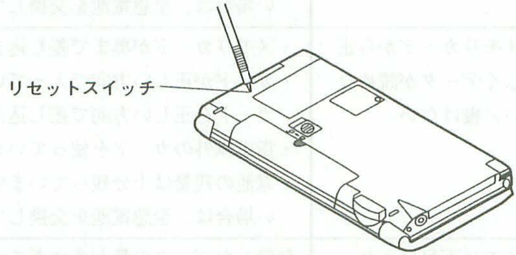
項目	現象	ここを確認してください
表示	画面が出ない。 または画面が薄い、濃い。	画面の表示濃度を調整してください。
赤外線通信	赤外線通信ができない。	・相手との距離が20～50cmの範囲内になっていますか？ ・お互いの赤外線送受光部がまっすぐに向き合っていますか？ ・受信側を受信状態にしてから、送信側からデータを送っていますか。？ ・強い光が赤外線送受光部にあたっていませんか？ ・電池の残量は十分残っていますか？残量が少ない場合は、至急電池を交換してください。
メモリカード	メモリカードから正しくデータが読めない／書けない。	・メモリカードが奥まで差し込まれていますか？ ・カードが正しい方向で入っていますか？ カードを正しい方向で差し込んでください。 ・指定以外のカードを使っていませんか？ ・電池の残量は十分残っていますか？残量が少ない場合は、至急電池を交換してください。
メモリ	メモリ不足によりデータの作成ができない。	登録したデータの量が多すぎます。不要なデータを削除してから登録し直してください。
アラーム	アラームを設定したが、予定の時刻になってもアラームが鳴らない。	・【コントロールパネル】画面の［ボリューム＆サウンド］アイコンをタップし、【ボリューム＆サウンドのプロパティ】画面で「通知」がチェックされているか確認してください。 ・時計のアラームで、アラーム設定した項目がチェックされているか確認してください。
スピーカー音	スピーカーから音が出ない。	・主電池が消耗しているときはサウンドは使用できません。新しい電池と交換してください。 【コントロールパネル】画面の［ボリューム＆サウンド］アイコンを【ボリューム＆サウンドのプロパティ】画面でサウンドの設定項目がチェックされているか確認してください。
電子メール、FAX等の通信	「現在の発信元」に「(空白)」という文字が表示され通信ができない。	登録できる発信元の最大数を超えています。 ダイヤルのプロパティ(D) ボタンまたは を選択し、作成されている発信元の名前を短くするか、不要な発信元を削除してください。

付録

付録1.3　リセットするときの注意 —リセット前にお読みください

強度のノイズ、強いショック、電池が消耗しているなどの原因で、「すべての機能が働かない」、「データを正常に表示できない」などの異常が発生することがあります。このような場合は、再起動のための「リセット操作」を行います。リセット後も同じ異常状態となる場合「初期化操作」を行います。(初期化操作を行うと本機に保存した全データが消去されるので、エラー対処以外は行わないでください)。

手順1　スタイラスを使用して本機裏側のリセットスイッチを押します。
電源ON中にリセットした場合、Mobile Gearが再起動します。
電源OFF中にリセットした場合、自動的に起動しません。電源スイッチを押すと、起動します。



注意!　強度のノイズなどが原因で、記憶内容に一部データ異常がある場合、上記のリセット操作で、記憶内容が消去されることがあります。
リセットスイッチはスタイラスやボールペンなどの先のとがっていないもので押してください。
針やシャープペンシルなど、先のとがったものや、折れやすいものは使用しないでください。

注意!　リセット操作を行うと、アプリケーションで編集中のデータは消去されます。

付録1.4　初期化するときの注意
― 初期化前および日頃からのエラー対策としてお読みください

強度のノイズ、強いショック、電池が消耗しているなどの原因で、「すべての機能が働かない」、「データを正常に表示できない」などの異常が発生することがあります。このような場合は、再起動のための「リセット操作」を行います。リセット後も同じ異常状態となる場合「初期化操作」を行います。（初期化操作を行うと本機に保存した全データが消去されるので、エラー対処以外は行わないでください）。

付録

初期化を行う手順は、以下のとおりです。

手順1　リセット操作を行っても同じエラー状態となっている（リセットでは、なおらなかった）ことを確認します。

手順2　Mobile Gearの電源をOFFにします。

手順3　ACアダプタが接続されている場合、ACアダプタをMobile Gearと、コンセントからはずします。

手順4　その他ケーブル類が接続されている場合、Mobile Gearからはずします。

手順5　本機をそっと持ち上げて、本機裏面を上にして平らな卓上に静かに置きます。

手順6　副電池カバー取り付けネジを＋ドライバーでゆるめ、副電池カバーを取り外します。
※副電池カバー取り付けネジをなくさないようご注意ください。

手順7　スタイラスで副電池を取り出します。

手順8　主電池カバーロックスイッチを解除（🔓）位置に合わせます。

手順9　主電池カバーをスライドさせて、主電池を取り出します。

手順**10** 手順9の後、30秒以上間をおいてから、主電池を戻し、主電池カバーを取り付けます。

手順**11** 副電池を戻し、副電池カバーを取り付け、副電池カバー取り付けネジを締めます。

手順**12** 主電池カバーロックスイッチをロック（⌂）位置に合わせます。

手順**13** 本機を起こして、ACアダプタを使用する場合は接続して、電源をONにします。
初期化が完了しました。

注意! 初期化を行うと本機のすべてのデータが消去されます。
バックアップを取っていると、リストアにより、バックアップした時の状態に戻すことができますので、定期的にバックアップしておくことを、おすすめします。

カードのデータに異常があるときはカードの初期化を行ってください。

付録2 Microsoft® H/PC エクスプローラを使うときの注意

Mobile Gear（MC-CS11、MC-CS12）とPC-9800シリーズのパソコン（Microsoft® Windows®95対応）をパソコン接続ケーブル（シリアルケーブル）でPC-9800シリーズのパソコンのCOM1へ接続して利用する場合は、次の点に注意してください。

・Mobile Gear（MC-CS11、MC-CS12）に接続するときは、Microsoft® H/PC エクスプローラを起動してからにしてください。

・Mobile Gear（MC-CS11、MC-CS12）の電源をOFFにするときは、Microsoft® H/PC エクスプローラを終了した後に行ってください。

・PC-9800シリーズのパソコンのCOM1のピン数が9ピン以外で、Mobile Gearに添付されているパソコン接続ケーブルの9ピン側と接続できない場合があります。その際は、パソコンのピン数に合った別売の変換コネクタをお使いください。

注意！ Microsoft® H/PCエクスプローラが動作可能なOSは、Microsoft® Windows®95日本語版、およびMicrosoft® Windows NT®4.0日本語版です。

参考▶ PC-9800シリーズのパソコン（Microsoft® Windows®95対応）のCOM2へ接続して利用する場合は、上記の注意は必要ありません。

付録3 アフターサービス

保証書について

よくお読みになり、その後は大切に保管してください。

保守サービスについて

保守サービスは、当社が指定した保守サービス会社が行います。当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。

<保守サービスの概要>

お客様ご自身で最寄りの修理受付窓口に修理品と保証書をお持ち込みください。

＜修理料金＞

保証期間内………無料

保証規定の第3項に該当する場合は有料になります。詳しくは保証規定をお読みください。

保証期間経過後…受付窓口にご相談ください。

修理により機能が維持できる場合は、ご要望により有償修理いたします。

なお、Mobile Gearの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）は、製造打ち切り後、最低7年間保有しています。

＜受付窓口＞

当社指定のサービス窓口

詳しくは添付品のサービス網一覧を参照してください。

付録4 本製品の譲渡について

本製品を第三者に譲渡される場合は、所定の条件にしたがってください。
また、譲渡を受けられた場合には、所定の手続きにしたがって、登録内容の変更を行ってください。

〈譲渡されるお客様へ〉

本製品を第三者に譲渡（売却）される場合は、以下の条件を満たす必要があります。

①本体に添付されている全てのものを譲渡し、複製物を一切保持しないこと

②各ソフトウェアに添付されている「ソフトウェアのご使用条件」の譲渡、移転に関する条件を満たすこと

③譲渡、移転が認められていないソフトウェアについては、削除したあと、譲渡すること

(本体に添付されている「ソフトウェア使用条件適用一覧」をご覧ください)

〈譲渡を受けられるお客様へ〉

NECからお客様へ、お知らせを送付することがありますので、必ず登録内容の変更に必要な以下の事項を記入し、官製ハガキまたは封書でご返送ください。

ただし、「98 OFFICIAL PASSお客様登録申込書」が未使用で残っている場合は、そのお客様登録申込書をご返送ください。

ご返送いただきましたお客様へは、適時、展示会、イベント、キャンペーン、セミナーなどのご案内や、ソフトメーカー様からの新作ソフトのご紹介などをお送りいたします。

記載内容

①Mobile Gear保証書に記載されている保証番号（製造番号）および当社が添付しているアプリケーションCD-ROM上の「Serial No.」もしくは「No.」＊

＊「Serial No.」もしくは「No.」がない場合は不要です。

②以前に使用されていた方の氏名、住所、電話番号もしくは中古購入されたお店の名称、住所、電話番号

③あなたの氏名、住所、電話番号

返送先

〒108-01 東京都港区芝五丁目7番1号

NEC

「98 OFFICIAL PASS登録センター係」行

〈本製品の廃棄方法について〉

本製品を廃棄するときは、地方自治体の条例にしたがって処理してください。くわしくは、各地方自治体にお問い合わせください。

付録5 用語集

項目	内容
アイコン	ファイルの内容やプログラムの機能などを象徴的に表す絵文字です。
アクセスキー	メニューまたはプルダウンメニューの項目名の横に表される一文字のアルファベットキーのことです。
アクセスポイント	パソコン通信サービスのホストコンピュータにアクセスするための電話番号です。
アップロード	パソコン通信サービスなどのネットワーク・サービス側に、あらかじめ作成しておいたファイルを転送することです。
オートパイロット	あらかじめ手順を登録しているサービスをログインからログアウトまで自動的に実行します。
オートログイン	利用者ID番号やパスワードなど必要な情報を自動的に入力して、ネットワークやパソコン通信サービスに接続します。
カーソル	画面上で文字や図形を入力/表示する位置を示すマークです。
カット	選択した範囲内のデータを切り取りクリップボードに保存します。
カレント	現在操作の対象となっているものを指します。表示されている文書一覧が本体メモリの受信BOX内のものであれば、カレントメモリは本体メモリ、カレントフォルダは受信BOXとなります。
クリップボード	データを一時保存しておくためのメモリ上の領域です。
コピー	選択した範囲内のデータをクリップボードに保存します。
スクロール	画面に表示する範囲を上下左右に移動させることです。
制御キー	Ctrlキーとアルファベットキーを合わせて押すことでカーソルの移動が行えるキーの組み合わせです。
赤外線通信	赤外線通信ポートを通してデータの送受信をすることです。
セル	表計算上の1つのマスのことです。
セルカーソル	表計算上で操作を行う上での対象となるセルです。
ダウンロード	パソコン通信で、端末側からコマンドを送り、ホスト・コンピュータ側に蓄積されたデータ・ファイルを端末側へ転送させることです。
タップ	画面表示されている項目またはボタンをスタイラスで1回触れてすぐ離すことです。

項目	内容
タブ	あらかじめ設定した位置にカーソルを移動する機能です。キーボードの左上にあるTabキーを押すことで、設定位置に次々とカーソルを移動できます。
ディレクトリ	複数のファイルを収容する箱のようなものです。
トーン	プッシュ回線を使用する場合に設定します。音の高低を信号にして電話番号を電話局の交換機に知らせます。
ドット	画面上に表示される文字や図形の大きさの単位です。
バイナリファイル	標準的な手続きで文字として読み出せないファイル形式全般を指します。＜反対語→テキストファイル＞
パルス	ダイヤル回線を使用する場合に設定します。回したダイヤルが戻るごとに、接点スイッチがカチカチとついたり離れたりして電気信号（パルス）を起こし、その信号の回数で電話番号を電話局の交換機に知らせる方式です。
フォーカス	現在、入力や修正を行った場合、反映される項目を意味しています。反転表示で表されます。
フォルダ	作成した文書やファイルを格納しておく場所のことです。
プロトコル	パソコンや大型コンピュータで、データのやり取りや通信を行う際の手順や約束ごとです。
ペースト	クリップボードに保存されたデータを貼り付けます。
本体メモリ	本体に内蔵されているメモリです。
マクロ	自動的に実行される一連の動作を1つのファイルにまとめたものです。
メモリ	作成したデータの保存領域のことです。
メモリカード	PCカードタイプのメモリです。本体のPCカードスロットに挿入して使用します。
リモートゲートウェイ（リモートG/W）	遠隔地のパソコンや端末から通信回線経由で送られる情報のやりとりを行う出入り口にあたる機器です。
レジューム機能	作業の途中で電源をOFFしたときに作業の内容を自動的にメモリに保存し、次回電源をONしたときにはその内容を復元する機能です。
ログオン	パソコン通信サービスやオンライン・データベースなどにパソコンなどの端末を接続し、利用開始することです。＜反対語→ログオフ＞

項目	内容
ログオフ	パソコン通信サービスやオンライン・データベースなどからパソコンなどの端末の接続を終了することです。＜反対語→ログオン＞
CSV形式	データをコンマで区切ったテキストで保存するファイル形式でおもにパソコンの表計算ソフトウェアなどとのデータ交換に使用します。
PCMCIA	PCメモリー・カード国際協会標準規格の名称です。
パソコン接続ケーブル	パソコンと本機をつなぐ時に用いられます。
SIG	パソコン通信サービスで、興味を同じくする会員同士が、一定の事象やテーマについて情報提供や意見交換を行う場所です。

付録6 仕　様

項　目		仕　様	
		MC-CS11	MC-CS12
メモリ		RAM　4Mバイト(OS、プログラム実行領域含む)	RAM　8Mバイト(OS、プログラム実行領域含む)
表示部	サイズ	5.1インチ反射型モノクロ4階調液晶	5.1インチ反射型モノクロ4階調液晶
	画素数	480×240ドット	480×240ドット
入力装置	キーボード	65キー	65キー
赤外線通信	通信速度	最大115,200bps(IrDA1.0準拠)	最大115,200bps(IrDA1.0準拠)
	通信距離	約20～50cm	約20～50cm
内蔵FAX/モデム部	通信速度	—	DATA: 14400/9600/2400bps (V.32bis/V.32/V.22bis) FAX:　14400/9600bps (V.17/V.29)
	エラー訂正	—	V.42, MNP2-4
	圧縮方式	—	V.42bis, MNP5
その他機能	時計	平均月差±30秒（25℃）	平均月差±30秒（25℃）
	音源	PCM音源（再生機能のみ）	PCM音源（再生機能のみ）
	シリアルポート	パソコン接続用	パソコン接続用
電源	主電池（動作用）	単3形アルカリ乾電池×2本(LR6) もしくは 専用充電池(MC-BA3)※別売 本体内充電機能あり(約10時間) 注)マンガン電池など上記以外の電池は使用しないでください	単3形アルカリ乾電池×2本(LR6) もしくは 専用充電池(MC-BA3)※別売 本体内充電機能あり(約10時間) 注)マンガン電池など上記以外の電池は使用しないでください
	副電池（データ保護用）	ボタン電池（CR2032）×1個	ボタン電池（CR2032）×1個
消費電力		1.5W（DC3V）	1.5W（DC3V）
使用温度		0℃～40℃	0℃～40℃
使用湿度		35%～80%(ただし結露しないこと)	35%～80%(ただし結露しないこと)
寸法		175(W)×97(D)×27(H)mm	175(W)×97(D)×27(H)mm
質量		約400g（電池含む）	約400g（電池含む）

は

ま

や

ら

英数字

NECパーソナルコミュニケータ
Mobile Gear
MC-CS11／MC-CS12

ユーザーズガイド(ハードウェア編)

1997年　7月　初版
1997年　9月　第2版

日　本　電　気　株　式　会　社
東京都港区芝五丁目７番１号
TEL（03）3454-1111（大代表）

Ⓟ

©NEC Corporation 1997
日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

199709A
808-882990-001-A